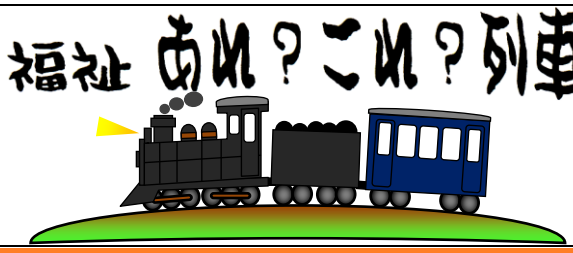


特定非営利活動法人 たすけあい一歩
代表 横田治絵
〒276−0026 八千代市下市場1−5−8
☎;047(485)7050 FAX;047(411)7626
Eメール tasukeai.ippo@gmail.com

Take free 自由にお持ちください

広がれ 福祉のこころ

ー八千代市を中心とした たすけあい活動30年の歩みー

匿名賛助会員

特定非営利活動法人 たすけあい一歩

ささやかな福祉を求めて30余年

代表　横田治絵

最近は、福祉という言葉をあまり聞く機会が無くなりました。

今から30余年前「在宅福祉活動」の旗印を恐る恐る掲げた列車が発車しました。しかもそこは未開地でまだレールが引かれていませんでしたから、真っ暗闇のトンネルの中を手探りで進んでいくような、不安この上ない出発でした。もし名誉があったなら、先の見えないことには手を出さなかったでしょう。もし欲があったなら、30年以上もこの道を走り続けることは出来なかったでしょう。

思えば母の死をきっかけに歩み出したこの道、いまだ母を超えることもなく、ただ亡くなった母の歳（行年54歳）を、もう、とうに超えています。時の過ぎ去るのが速すぎて、ひとつ過ぎ去るごとに変わる時代の変化に翻弄されながらも、よくぞここまで来たものだと我ながら感心しています。

そろそろ自分の終い方を考えなければならないという時期に来ても、相変わらず自分自身を見つめる時間が廻って来ません。

昭和61年にスタートして平成元年には24時間年中無休の活動になって今日に至っているのですから、これは死ぬまで？　いえいえ、今となってはあの世まで続いて行くような気がしてなりません。

さて、こんなにも長い間、何らかの形で関与してくださった皆々様には、何をさておいても心より御礼と感謝を申し上げます。

思えば次々と浮かんでくる出来事があまりにも膨大で、しかもそのひとつひとつが私の脳裏にしっかりと焼きついていて、何ともリアルに蘇って来るのです。

天にも昇るような気持ちで喜んだり感激したりしたあの日のこと、また、地の底に叩きつけられたように打ちのめされたり、もがき苦しんだり、嘆き悲しんだり、恨んだり憎んだりした日のこと、人間の持つありとあらゆる感情をこの身を通して経験させていただきました。もちろんその都度、何故？　どうする？　どうだった？　と熟慮に熟慮を重ね、反省と前進のため↗のエネルギーを蓄え、一歩そしてまた一歩と歩み続けて来たのです。

しかし、どんなに慎重に歩いても、人の世の道には獲物を獲るかのように無数の罠が仕掛けられています。人を愛し人を信じることを美徳としてきた私には住みにくい世の中になりました。

確かに夫婦でも親子でも兄弟姉妹であっても、その心は千差万別で、似ているようでも全く違うのです。ですから人の行いはその人自身の責任だと言えます。他の人の思いや意見に沿ったとしても、たとえ強要されたとしてもその行動の決定を下したのはその人自身だからです。

木々の樹齢に比べたら人の寿命はあまりに短く儚いと思いませんか？

古希ともなれば、もう人間卒業かなと思っておりましたが、もう少しがんばれそうです。でもさすがに身体はボロボロ、なぜか増え続ける脂肪が唯一の救いで、元気印を保っております。

人は遅かれ早かれ皆同じところに行きます。善人も悪人も、大富豪も貧乏人も、大統領も総理大臣も、医者も尊主も、あなたも私もです。

ただ、生と死は背中合わせと言いながらも、その距離感たるや計り知れないものがあります。どんなにあがいても何千年もの間、時は正確に刻まれ容赦なく過ぎ去って行きます。その途上に正に「露と落ち露と消えゆく命」は医学の進歩した現代でも平均85歳前後です。

普通、人は6歳頃から22歳頃まで勉学に励み、世の中で生きて行くための基礎を身につけます。その後は皆それぞれの思いを持ってそれぞれの道へと自由に歩んで行きます。順風満帆の人もあれば、思い通りに行かず悪戦苦闘を繰り返す人もいるでしょう。大切なことは意図した状況の下ではなくても、モラルに欠けることなく最善の努力をすることです。何事もあきらめればそれまでで、願い続ければ時期にかなった最もふさわしい答えをいただくのです。

実際私自身、窮地に追い込まれることが数え切れないほどありましたが、本当に大勢の皆様にいつも助け舟を出していただき、ここまで沈没することなく乗り越えて来ました。今ここに存在していること自体が奇跡にさえ思えます。正直、齢を重ねるごとに人の世で生きることの難しさを噛みしめておりますが、「不器用な山下清」がちぎり絵で救われたのなら、「不器用な私」は正しい動機による行動によって救われて来たのだと思います。そうして走り続けた私の人生も、いよいよカウントダウンに入ったようです。あとどのくらい生きられるのかは分かりませんが、100年経てば今生きている人たち皆過去の人になるのです。歴史上のたったひとコマの僅かな一滴でしかないこの命、↗最後までささやかな福祉(幸せ)を求め続けてまいりたく願っております。

真の宝、それは形ある物ではありません。
真の宝、それは人の心の中にある物です。
真の宝、それは真宝(まほう)です。
「まほうの家」の皆さんの心の中には
真宝がいっぱい。
私の心の中にも数え切れないたくさんの
真宝がいっぱい。
どこまで行けるか分かりませんが、
ことしいっぱいを目標に、
ひとつひとつ取り出してみたいと思います。

「まほうの家」
八千代市島田台 昨年9月25日

「たすけあい活動30周年記念式典」・「敬老と福祉の集い」を開催しました

昭和61(1986)年９月１日に始まった「たすけあい事業」が、昨年 30周年を迎えました

「何かお手伝いしたい」、ただそれだけの志を持つ地元主婦の皆さん、それも「看護師」「栄養士」「保育士」「保母」と多様な職種の方々が集い、昭和61年9月1日、千葉県八千代市八千代台北1丁目にて活動を始めた「ワンコイン福祉」が今の「たすけあい事業」の源。発足から昨年（2016年）で30年を迎え、9月２５日に「敬老と福祉の集い」を兼ね、特定非営利活動法人「たすけあい一歩」主催で「まほうの家」にて記念式典を行いました。大勢の方々にお集まりいただき誠にありがとうございました。

当日はまず、「からだ元気治療院　八千代」さんによる「健康フェスティバル」が催され、「早口言葉により喝舌運動」や「笑いヨガ」などで場を和ませてくださったあとは、横田理事長によるご挨拶、30年にもわたる「たすけあい事業」の歩みについて語られました。↗

↗挨拶終了後は、2階の空き居室内に設けられたブースにて「ニコニコアート体験教室」や「マッサージ無料体験」などの催し・会食・カラオケ大会と、30周年の節目にふさわしい豪華な宴となりました。特に「からだ元気治療院　八千代」さんの「マッサージ

「からだ元気治療院八千代」さんによる「笑いヨガ」

無料体験」には長蛇の列ができ、体験できなかったかたも現れるほどの盛況で、ご迷惑をおかけいたしました。当日お忙しいなかお越しくださった皆様、ありがとうございました。

「まほうの家」より 毒蝮三太夫さん 生放送!!

TBSラジオ AM954＋FM90.5 「ミュージックプレゼント」の公開生放送、すてきな「マムシさん」が お越しくださいました

「ミュージックプレゼント」生放送後 毒蝮さんとの記念撮影
「まほうの家」3月30日 午前11時30分ごろ

「まほうの家」に毒蝮三太夫さんがお越しくださいました。毒蝮さんがメインパーソナリティーを務めるTBSラジオさん「ミュージックプレゼント」の公開生放送が「まほうの家」より行われたことによるものです。同番組は毎週月曜日から木曜日午前11時25分から38分の帯放送、技術さんが9時30分ごろお見えになられ、毒蝮さんは10時20分「まほうの家」敷地内についに登場、介護の分野に明るい毒蝮さんは、生放送前後にも我々に語りかけてくださいました。まずは生放送での楽しい問答を誌面にて再現（一部割愛）いたします。

「まほうの家」に降り立った毒蝮三太夫さん
3月30日 午前10時21分

スタジオ　時刻は11時22分、きょうはマムシさん、千葉県八千代市島田台879の7、サービス付高齢者向け住宅「まほうの家」さんにおじゃましています。マムシさーん！

よー、暖かくなったよー。
いま上着脱いだよ。もうすぐ15度だよ。↗

スタジオ　ところでマムシさん、あした81歳のお誕生日ということで、おめでとうございます。↗

いやいやいや、まぁ行く先々でお祝いされたりしてね、俺が忘れているのに、まぁ歳をとったなぁっていうふうにね、無理やり思わされるよ。それでね、ここは東葉高速鉄道・八千代緑が丘駅からバスで15分の所なんだよ。だからまだまだ高速道路が完備してないし、60キロぐらいあるんだけどね、赤坂から。そこにね、皆さんが入れる老人ホームをお造りになったという、そこにおじゃましたわけ。ちょっと街道筋でね、とってもキレイな所なんだよ。でもちょっと遠いんだけどね、車はどんどん通ってる・・・。2年前ぐらいに出来あがったっていう所へおじゃまします。皆さん入居している人もね、10人くらいいらっしゃるらしいんですけどね。まぁ、近所の人も来てるんでしょう。皆さんのいる部屋へ入るよ、ハイ、どうもー!!

キャー、マムシさーん!!!

いやいやどうも。はいはいはいはい。ここは風呂も入れるし、泊まれるし、おー、いろいろとテーブルの上に食事が用意されてるしね、おとっつぁん？　ここは楽しいかい？

ええ、いいですね。

あー、そう。あの、職員で意地悪なのいないかい？

大丈夫、みんな和やか。

大丈夫か？　中には後ろから突き落としたりなんかされたり・・・、気をつけろよ！↗

↗ハハハハハ

おとっつぁんは下向いてるけど大丈夫かな。俺の名前、分かる？　言ってくれる？

マムシさんだよ。

おー、ありがとう。杖ついてねぇ。一生懸命ね、毎日毎日生きるの闘ってるんだな。こちらもここで入所してるのね、食事はおいしいかい？

おいしいです、はい

あーそう、たまには「針」なんか入ってることないかい？

ハハハ、大丈夫です、おいしいです。

あー、そうか。こっち(＝「だんらんの家　中志津」伊藤代表)も入所しているの？

いいえ、違います、きょうは、あのぉ・・・

冷やかしか、
この野郎!!

ハハハハハ

佐倉市の「だんらんの家」から来ました。

あー、チェーン店みたいな？　やはり、そういう人たちが入所しているっていう所ね。こちらは入所者？

はい、そうです。

職員はみんな優しいですか？
「深爪」されたりなんかしない？

ハハハハハ

大丈夫ね、楽しい？　よかった。じゃぁ職員のかたに「ありがとう」って言ってあげて？

「ありがとうございます」

ほらぁー、言ってくれたよ。利用してるの？　さっき部屋見たけどキレイないい部屋じゃない？

はい

俺が来るっていうんでキレイにしたんだろ、このヤロ！

ハハハハハ

オーナーの、
なんてお名前なの？

横田治絵です。

ほら見てごらんなさいよ、すばらしいよ、トドが立ち上がったのかと思ったよ。マーライオンみたいな格好してな、天童よしみが歌ったのかと思ったよ。なんで福祉に就くようになったの？

私は母の死がきっかけです。北海道で生まれまして育ったのが岩手県釜石市です。今回の津波でやられてしまったんですけど、なぜか千葉県に来てしまったんですね。

で、親を介護したんで、こういう施設を作ろうということで？

いえ。介護してるんじゃなくて、親にすっかり甘えて生きて来たんですよね。ところが急に亡くなっちゃったものですから、親孝行しないうちに死なれたので。

「急に」ってことは、ピンピンコロリだったのね。

それで親孝行できなかったってことはすごく人間として悲しいことで･･･。

じゃぁ、こうやって利用者の人は親だと思っているわけだ。

そうですね。

はー、どうだ、この娘は!! このマトリューシュカのような娘は！　それで介護の資格も持っていらっしゃるの？

はい、介護支援専門員です。

あー、そうなの。お年寄りで喜んだとか、驚かされたことはない？

もう数え切れないほどあります。小説にしたいぐらいあります。

あー、そうか。今ね、介護の小説も随分あるし、この前「芥川賞」とったのも、介護の小説ですよ。

「介護入門」モブ・ノリオ著
第131回芥川賞受賞　29歳無職、祖母の介護に汗を流す「俺」。それ以外の時間は、大麻にふける「俺」。祖母を過ごした濃密にして閉塞した時間を描いた作品。

介護が小説になってる時代ですよ。日本はまだまだ深みが無いでしょう、そういう点で。

介護保険になって、なおのこと介護保険の関係で介護が難しくなってきたっていう気がします。

皆さんは介護保険を使って利用しているわけでしょ？

今はそうですが、私がこの八千代市で介護を始めたのが昭和61年で、介護保険が無い時代だったんですよね。それで本当に自由に活動させていただいたんですけども、利用者の皆さんと、それから活動する私たちの意志の疎通がしっかりととれて「人」という字になってたんです、支えて支えられて。

ということは、介護保険のおかげで縛りが多くなっちゃったってことだね？　介護保険も40歳から払うようになりましたからねぇ（2000年4月施行）。これからはもっともっと下の人が払うようになるよね。いろいろ問題あるわ。俺、厚生大臣じゃないから、言われても困るんだけどね。

でもぜひ、マムシさんには介護についていろいろとこれからも一緒に検討（健闘）していっていただきたいと思っています。

それはあるよね。でもね、俺も歳だから、介護受けるような側になっちゃうと思う。だけどね、介護っていうのは、介護されるほうも、するほうも、いろんな歩み寄りがないとうまくいかないよ。で、ここで職員を、うまく騙して使ってんの？
ここの職員なのね？　そうなの？　給料は？

･･･最高です！（＝「株式会社あゆみ」社長・荻野博志）

お？　なんか間があいたな。大丈夫か、おい？　大阪府知事みたいな顔してるじゃないか？

給料は「最高ですよ」･･･と思うぐらい、やり甲斐の出てくる仕事です。

えらいなぁ。俺が思うのはね、給料が高くてもやり甲斐と生き甲斐の無い仕事はすぐ辞めたりしますよ、安くてもやり甲斐と生き甲斐があれば長く続くことが出来る。だからやり甲斐を見つけるかどうかだな。
だって皆さんだってさ、好んで病気になったわけじゃないもんね。好んで人の世話になりたいわけじゃないもんねぇ。これは生きていく上でしょうがないことだもんねぇ。だから俺もそう思う。俺のおふくろがよく言ってた。「具合の悪い人がいたら声をかけなさいよ。あなたの病気を背負ってくれたんだから。知らん顔すんじゃないよ」、だから皆さんも元気で毎日を笑顔で楽しくやってください。

©文藝春秋

♪リクエスト曲
「おふくろさん」
森進一
©VICTOR SV-1098

というわけで、スタジオの(ジェーン・)スーちゃん、きょうは重い話になったけどね、介護保険っていうのも毎年毎年修正はしてるんだけどね、でも現場をもっともっとよく知って修正していかないと、こういう人たちが「生きてよかったな」というふうにはなれない。まぁ、介護予防がいちばん大事なんだけどね。介護予防って言ったって、介護を皆さん受けないで生きていくわけにはいかないよ。キレイな部屋だよ、スーちゃん。俺も入りたいぐらいだよ。賄いも今作ってくれてるんだよ。いろいろとすごいよ。どっかの大パーティーみたいだよ。サウジアラビアの王様が来たみたいな料理が出てるよ。「マムシさんお誕生日おめでとう」なんて素晴らしい花で飾ってくれて・・・。ありがとね、また歳とっちゃったよ。
治絵さん、これ(「おふくろさん」森進一)誰に贈るの?

Hさん(放送は実名)に贈ります。去年ここで亡くなった100歳のおばぁちゃんがいるんです。伊藤正子さんっておっしゃいます。その娘さんが親孝行で、むしろその正子さんがいろんなこと・・・、戦後の苦しさを乗り越えて子どもに教えたということが娘さんの生きる糧になったみたいなんですね。きょうはラジオを買って聞いてくれてるんですよ。

「買って」!? 今まで無かったのか!しょうがねぇなぁ。じゃぁHさん聴いてください。↗

というようなところでございます。どうぞみなさんね、風邪ひかないように。転ばないようにね。素晴らしい週末をお迎えください。どうもありがとう。ごきげんよう。「まほうの家」です。真の宝で「まほう」です。どうもありがとう、さようならー!

以上で生放送終わりです!(以降OA後)

これでね、ここ(まほうの家)が、皆さんが聞いてくれて「じゃぁ、あそこ行こうかな」って思ってくれりゃいいけどね。こういう仕事はね、なかなか儲からない。介護保険でやってるから特に儲からない。ね? 上限が決まってるからね。で、こういう人たちの月給も介護保険だから儲からないってことがあるんですけどね。たまたまね、こういう所で放送した時に、「どうだった? この家の食事とか、職員の皆さん親切?」なんて言ったら「まぁまぁの料理だな」って。「『まぁまぁ』って言ったって一生懸命作ってんだぞ」なんて言ったらね「冗談じゃねぇ、こっちもね金払ってんだぞ」って、そういうジジィがいたの。で、これはうまくいかない。作るほうもね、やっぱりね、作り甲斐がないよね。だからね、こういう意地悪なジジィにならないようにして欲しいんだよ。ババァにもいる、そういうのがいるんだよ。あのね、焼きもち焼きとか、意地悪とかね。それで「私の所に来ないで、あの人、あそこばっかり行ってる」とか言われるだろ? それと、こういう所はね、今これから俺もいろいろと書いたり言ったりしようと思うんですけどね、こういうユニークなスタイルの人(=横田代表)はいいんです。かわいい女の娘がいると流行るんです、ジジィがね一生懸命リハビリやんの。ババァもかわいい男の子がいると言うこと聞くの。
でもやっぱりね「金払ってんだろ!」って言うジジィはよくないよ。そういうこと言ったってね、職員は充分もらってるわけじゃないんだから、お互い様。さっき言った「支える」って字、そう思ってください。

毒蝮三太夫さん 楽しく和やかなひと時を ありがとうございました

横田代表 生放送「後記」

「ミュージックプレゼント」生放送中の毒蝮三太夫さん
「まほうの家」3月30日 午前11時30分ごろ

「まほうの家」においでいただいた翌日がお誕生日で、御年18歳（？）とはまたまた驚きました。本当におめでとうございます。歳の数がひとつ増えたことに「おめでとう」とは申しません。歳を感じさせない舌廻り・気遣い・気配り・気働き（行動力）に敬服すると共に心からお祝い申しあげます。

前期高齢者の私をはじめ、後期高齢者の入居者の皆様、「たすけあい一歩」の賛助会の皆様、「だんらんの家　中志津」の皆様、「まほうの家」の職員、そして毎月お年寄りにボイストレーニングしてくださっている水木翔子先生も参加してくださり、毒蝮さんの舌の上で至福の時を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

生番組ということで多少の緊張はありましたが、毒蝮さんの醸し出す雰囲気で皆さんリラックスはしておりました。でも、プロと素人の違いをはっきりと感じました。それは限られた時間内で言いたいことを簡単明瞭に言えないということでした。毒蝮さんがフォローしてくださり、感謝でした。

さて、一見怖そうな名前の毒蝮さん、私の頭には「福祉の毒蝮さん」とインプットされております。私が福祉の道へと転向したのは、54歳だった母の↗死がきっかけでした。当時私は30歳にもなるというのに医療にも福祉にもまったく無知でした。まぁ私のことはさておいて、職員が私に気を遣って「給料はそれなりにもらっていて満足している」と言いました。最後には「この仕事には給料以上のことがある」と立派なことを言ってくれました。何ともありがたい言葉ですが、それに甘えていては福祉を志し人の上に立っているのは恥ずかしい。彼の給料は、一人で生活するのがやっとで、妻子を養うには程遠い金額です。ですから未だに独身です。正直、労働に見合ったお金を支払ってやりたいのはやまやまです。けれども介護保険事業は物を売り買いする仕事ではなく、頭脳労働と肉体労働で一人一人に対応していくので当然限りがあります。しかも報酬額は国が定めており、はみ出しは自分持ちです。例えばAさんが1時間の身体介護に移動時間を入れると1日4～5件が精一杯でしょう。30分以上1時間未満は3,880円×5件で19,400円。これがヘルパーさんの日当なら悪くはない。しかしこの中には、事務所や電話・パソコン・事務員（サービス担当責任者を含む）等、諸々の費用のほか、労災保険料・社会保険料・車両維持費、そして事業所税等が含まれるのです。事業所を立ち上げても、およそ2年で閉じて

しまう所がたくさんあるというのも事実です。また、施設が足りないから「サービス付高齢者向け住宅」に助成金を出して創らせたのも事実です。ところが最近のニュースでは、経営難のため、200件以上が潰れているという。さらに200人前後待ちと言われてきた介護施設(特別養護老人ホーム)では、ベッドが空いていても受け入れできないという施設もあるという。なぜなら介護職員が不足しているからとのこと。西暦2025年には高齢者増のピークが到来します。今でさえ問題が深刻になっているのですから、ピーク時の混乱ぶりが浮かんできます。迫り来る高齢化社会のピークを目前に、人として最も人間らしさを備えていたいと思います。一人でも多くの人が人間らしくあれば、どんなに大変な高齢社会であっても必ず乗り越えられると確信しております。日和見主義はもう通用しません。一人一人が自分の意思で行動しなければ乗り越えられないからです。人はたとえ川の流れに身をまかせる時があっても、自分をしっかり持っていなければ流されるままになってしまいます。

毒蝮さんの「ミュージックプレゼント」に私は「昨年**100歳で亡くなられた伊藤正子様の長女に**」と決めました。(生放送中)頭の中が真っ白になって上手く説明できなかったので、この場で改めて書かせていただきます。

正子さんが有料老人ホームからサ高住の「まほうの家」に転居されたのは99歳の時でした。娘さんが、ほとんど寝たきりになっているお母さんを心配して、長男と二人で連れて来られました。身体が衰弱しておられたので100歳を迎えることができるのか不安でした。昼は車椅子に移乗してリビングで過ごす。声かけには確実にその目が反応していました。歌えば拍手で応え、「世の中が悪いのは政を司る人たちが悪い」と言うと「そのとおり！」とはっきり言われてびっくり。女学校(現 実践女子大学)に通っていた頃はハチ(現 渋谷にある忠犬ハチ公)の頭をなでていたといいます。なぜか正子さんには感激させられることばかり。それもそのはず。正子さんの自叙伝を読んで、なんとたくましく戦時中の苦難を乗り越え、「二度と戦争はいけない」と平和運動に邁進されて来られたという信念を貫いたかたと分かったからです。「伊藤正子」その名は平和活動に身を投じた一人の人間として、ことし青山墓地にある墓標にその名を記されることになりました。そんなすばらしい母を大切に思われていた長女に「おふくろさん」の歌をリクエストしました。

毒蝮さんが職員一人一人にマイクを向けましたが、皆さんやっぱりうまく言えなかったようで、全員の思いをまとめると、一昨年の**たなばたの日に「ガン末期で明日をも知れない」という男性が入所されました**。前立腺ガンに始まり、肺・骨と全身に転移していました。少しでも痛み無く、楽しく、人間らしくと自然体で過ごしていただきたいと必死でした。翌年のたなばたには遺言めいたことを短冊に書いて、歌を3曲披露して、翌8月に亡くなりましたが、食べ物の好き嫌いはほとんど改善され、歌のレパートリーは増え、味もありました。ガンの痛みに苦しむことも無く、若い頃のこと・結婚してからのこと・妻の死後の数々の武勇伝を聞かせていただき、「まほうの家」に舞い降りた奇跡のような人だと思いました。今でもあの渋い大きな声がどこからか聞こえてくるような気がしています。

人は、生まれてから死に至るまで常に幸せでありたいと思います。それが福祉であり、ごく自然の願いなのです。

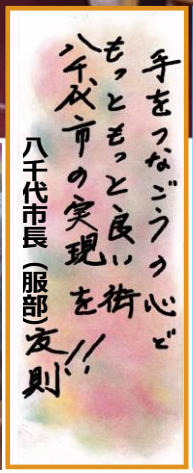
毒蝮三太夫さんと過ごした時間は本当に福祉(幸せ)でした。ありがとうございました。また、TBSラジオのスタッフの皆様、本当に楽しいひと時をありがとうございました。

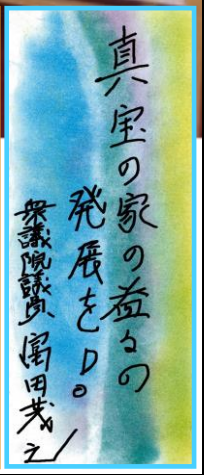
「たなばたまつり」短冊に願いを…

特別来賓に、八千代市長・服部友則様をお招きいたしました

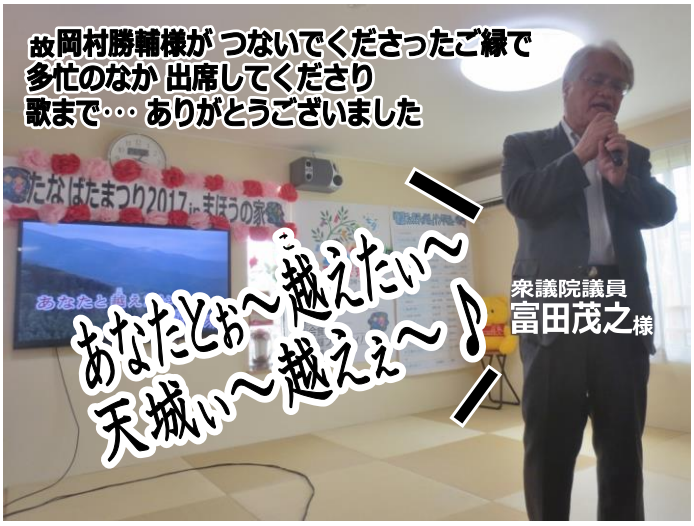
ことしの7月7日「たなばた」は金曜日と平日ではございましたが、「特定非営利活動法人　たすけあい一歩」主催で「たなばたまつり」を「まほうの家」にて開催、特別来賓には、ことし5月21日に行われた八千代市長選に、自民党の推薦を受け再出馬し、現職ら4候補を破り初当選、同月26日就任した服部友則様を、そして、その他政界からの来賓には▽自民党　衆議院議員　小林鷹之様の秘書・赤塚様▽公明党　八千代市議会議員　正田富美恵様▽公明党　衆議院議員　富田茂之様、▽自民党　八千代市議会議員　成田忠志様▽公明党　県議会議員　横山秀明様（五十音順）が、その他にシンガーソングライター　水木翔子さんや、近隣の皆様や見学を兼ねてお見えになられたかた、「ユーカリ優都苑」・「だんらんの家　中志津」の皆様、職員の友人など、40名を越える多くの皆様にご参加いただきました。

「たなばたまつり」
「まほうの家」7月7日





お食事と平行し「歌謡フェスティバル」を開催、服部市長による「きよしのズンドコ節(氷川きよし)」でスタート、「この曲はお年寄りが喜ぶから」と、市長自らの選曲が見事大当たりで、初っ端から大盛り上がり！ 千葉県議会議員・横山秀明様は、後日ご自身のフェイスブックで「ひと言ご挨拶…だけでは帰れず、定番曲を唄うハメに」と「2億4千万の瞳～エキゾチック・ジャパン(郷ひろみ)」をご披露いただき最高潮に。にぎやかな「まほうの家」のたなばたでした。

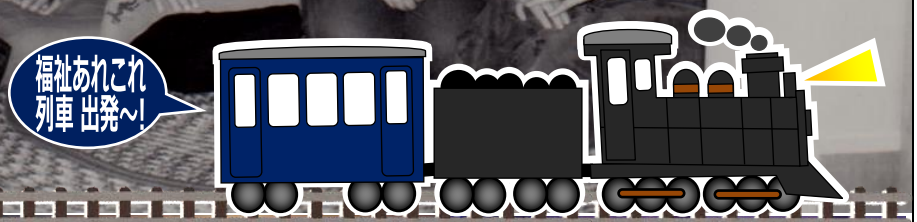


「たすけあい活動」30年のあゆみ

まさにこの場所からはじまった「たすけあい活動」、写真で振り返る30年史

「たすけあい活動 500円福祉」出発の事務所
八千代台北1丁目・1986年9月1日

たすけあい出発



1986年

1987年

美女に囲まれ迎えた90歳

二号店 活動維持のためクリーニング取次店併設
1988年5月

「心穏やかだと100歳まで生きられる」
1991年9月

「潤心協会（当時）春のお楽しみ会」
勝田台文化センターホール 1991年5月

ハイ
ゆっくり召しあがれ

みなさん、おつかれさま!

103歳誕生会
103歳、スゴイ!!

「第14回 お楽しみ会」
勝田台文化センターホール

食事のあとはケーキがあるわよ

これからも私どもは がんばってまいります よろしくお願いします
ありがと

みなさん、ありがとう

100歳バンザ~イ!

旧潤心協会

バザーですよ~いらっしゃい!!

たすけあい邁進中です!

100歳のウェディングドレス
100歳でウェディングドレス感無量です

千葉市動物公園
千葉・若葉区
うしろにはゴリラがいるんだけど写ってないな

白鳥(ハクチョウ)見えた?
「白鳥の郷」
千葉・印西市

「潤いの郷」竣工式典
千葉・八千代市
地元の皆さん「潤いの郷」よろしくどうぞ

うらめしや~

無事 竣工ありがとう

お見事!
「春のお楽しみ会」
1991年5月

潤いの郷（当時）「新年の餅つき」
千葉・八千代市 2006年

「クリスマスパーティー」
「潤いの郷」2005年

「100歳のお誕生会」
「潤いの郷」2005年

福祉あれこれ列車
まもなく20年走破!

「潤心協会（当時）お楽しみ会」
勝田台文化センターホール 2005年

潤いの郷

20周年記念「お楽しみ会」
千葉・八千代市 2007年

2007年ごろ

「忘年会」
2007年ごろ

昭和61年から平成21年まで、支える人と支えられる人が共に心を潤すことが本当の福祉の成立と考え、高齢者福祉実践相談所・潤心協会と名付けて「ワンコイン福祉」をスタートし、全力投球して来ました。ボランティア活動の域とはいえ、誰もが手を出さない重介護まで、竹内孝仁先生(教授)の教えと助言を基に実践しました。会員制の活動は、口コミだけで利用会員が年々倍増して、協力会員がいつも足りないという状況でした。

それでも協力会員は保護司・看護師・保育士・元教員に、何と言っても主婦満点の奥様方が大半でしたから、その人間性に触れる利用会員は喜んでくださいました。当時はまだ介護の資格のようなものもありませんでしたが、竹内先生が主婦の潜在能力を指摘されたことを念頭に、お年寄りの介護をするにあたってぜひ知っておいていただきたいことを書いた簡単なテキストを作り勉強会を開催、まだ40にも満たない未熟な私の話を、人生の先輩である協力会員の皆さんは熱心に聞いてくださいました。

介護の資格こそありませんでしたが、今日の介護職員とは比較できない活躍ぶりでした。きざな言葉かもしれませんが正に「介護は頭でするのではなく、心でするもの」を実践しておりました。

ヘルパー業務の三本柱の一つは生活支援(家事援助等)、二つ目は身体介護、三つ目は相談助言ですが、家事援助等はベテラン主婦の得意分野で、私のほうが学ばせていただきました。身体介護は経験を積んで行けば必ず上達する。相談助言は今日の訪問介護ではとても時間がなくて厳しいが、当時は仕事をしながらでも話を聞いてあげることができたので、よい関係が保てました。私が言っていた相互扶助とは利用会員と協力会員が支えて支えられて両者が共に心が潤うということでした。

慶応ボーイと言われた元某企業の重役だった竹田さんは、妻の介護を通じて私たちの活動を高く評価してくださり、賛助会を盛り上げてくださいました。ともかく貧しくて苦しい活動なのに、夢中にさせられる何かがありました。

経営なんてとても成り立たないのにやろうとするのは、何か甘い汁があるからだと言われたこともありましたが、20時から8時まで夜勤の仕事をして生計を立て日中はフル活動。睡眠は夜勤帯でとれる仮眠のみでしたが、傲慢にも不死身という言葉を実感していました。しかし、紆余曲折の連続の中で、胃けいれんを起こしたり、めまいを起こして倒れたり、大出血をしたりで何度入退院を繰り返したことでしょう。

活動上の大変化は平成12年の介護保険の導入でした。

たすけあい活動だけで行こうという道と、介護保険事業に参入しようという道がありました。100件ほどあった利用会員を他事業所に移行させ、どうしてもと言う利用会員36件だけ継続することにしましたが、1年後には再び100件になっていました。24時間仕事絡みの生活をしていた私には夜中にパソコンを打っていても大きな変化は感じませんでしたが、大半の人たちは残業残業で世の中パニック状態でした。テレビからは「コムスンです、コムスンです･･･」と聞こえてくる。ゲートボールをしていたお年寄りが「よい制度が出来たもんだ。こうしてゲートボールを楽しんでいる間に掃除洗濯してご飯の用意までしてくれるんだから、ありがたい、ありがたい」と言っていたこともありました。

昭和60年、厚生省がこれからの福祉は施設ではなく、長い間住み慣れた所でと在宅福祉への方向性を示しました。私は重度でも在宅で過ごしたいという人や、最後は家で死にたいという人たちにとって素晴らしい朗報だと思いました。

しかし当初はどこの事業所も重度は取らない。軽度で数をこなしたほうがよいわけです。必然的に重度のかたが集まってしまうのですが、ヘルパー2級を修了してきただけでは即戦力にはなりません。今こそミニホームが欲しいと思いました。目の行き届く範囲の施設で経験を積み、在宅に飛び出して行けることが理想でした。八千代市下市場で始めた宅老所も介護保険導入後はデイサービスと位置づけられましたが、重度のかたと共に車椅子が増え、身動きが取れなくなってきていたところに、○○銀行の情報で村上橋の近くにあった物件を紹介されました。↗

↗トントン拍子に話が進んで、リフォームに1,500万円以上かかると聞いて、それなら建て替えたほうがよいということになったのですが、およそ5,000万円くらいかかると言う。経理を担当していた会長は「お金はない」と言いました。一流銀行にいた会長にすべて任せていた私は「NPOだからしょうがない」と単純に考えていました。銀行から2,500万円借り入れ、私は預貯金や金目のものを全部集めて、1,320万円準備するのが精一杯でした。そこで大成産業さんに相談して、なんと1,000万円を値引きしていただいたのです。今は亡き大成産業の会長は、上棟式の時「1,000万円おまけして、赤字は覚悟の上ですが、柱の1本まですべて計画通りで全く手抜きはしていない。ですから完成後は、手を抜かない介護をしてください」と言われた言葉に胸が熱くなったことを今でも忘れません。

ちょうどその頃、潤心協会の2番目の利用会員だったかたの長男・故岡村勝輔様より「何か援助が出来ないか」とのお話がありました。以前にもそんなお話があったのですが、今回こそが好機とお願いしました。ミニホームは必要に迫られて村上・高津・緑が丘と開設する運びとなったのですが、こうした**繁栄がすべて裏目に出て来る**ことになりました。

私には介護保険が大勢の人の心を狂わせたのだとしか思えません。

実直だったはずの会長の心を、ケアマネの資格があれば仕事はしなくてもお金が入ると思いあちこち渡り歩くケアマネだと言う人の心を、リストラされた夫のために会社を乗っ取ろうと工作する中国人の心を、またその中国人に便乗して乗っ取りに必死で、介入したケアマネの心を、不正にボロ儲けをしていると解釈して、

村上リビング「クリスマスパーティー」
八千代市村上 2008年12月23日

潰して全て奪ってやろうとしたお役人の心を、「介護度の重いのばかり選んで金儲けした」と言い放った市の職員の心を、皆、介護保険のお金が人の心を狂わせ、見るも恐ろしいハイエナ化させてしまったのです。

特に中国人のR・M(中国名G・T)の必死の乗っ取り工作は、ドラマ以上のものでした。よく犯罪に巻き込まれたり監禁されたという事件をニュース等で見ますが、どうして逃げられなかったのかと不思議に思うことがあります。でも実際に似たような状況に置かれたら、恐怖とマインドコントロールのような金縛り状態に陥り、身動きが取れないということを経験しました。R・Mは夫や別の中国人、また介護福祉士T、ケアマネK等を使い暴行を重ね恐怖に陥れて行く絶対的権力を行使していました。皆お金が欲しかったのです。金庫をハンマーのようなものでめちゃくちゃに壊して通帳を奪っても、会長は椅子にしがみついて全く動かない。暴行を恐れたのではなく、横領していたのが世間に知れるのを恐れていたのです。R・Mは「市の職員は皆私のファンです。県の職員は夫の友達の友達で、R・Mになら潤心協会をさせてやると言った」と豪語していました。

会長は介護保険事業所に参入しなかったらお金に狂うことはなかったと思うのですが、たとえ自分の恥部を知られても潔く罪を認めていたら自殺者↗まで出さなくてよかったのに、最後まで自分自身を守り通したエゴの報いは必ず返って来るでしょう。

介護保険前のことですが、ある時会長が言いました。「横田さんは人を信じ過ぎる。自分も他の人もどんなに信じても90%にしなさい。残りの10%を裏切られた時に立ち直るために残しておきなさい」と。会長はこんなことになる時を予測していたのでしょうか。

私と姉は2階の台所がめちゃくちゃに破壊されているのを見て、その恐怖はピークになり、姉がわなわなと泣き崩れ体の震えが止まらなりました。そして、今は亡き岡村勝輔さんの会社に助けを求めて駆け込みました。忙しい中を戻って来てくださった岡村さんは私たちを励ましながら「あまりに悪魔的だ。殺されては大変なのでもう出なさい」と言われ、潤心協会を出る決心をしました。「事実は小説よりも奇なり」と言われますが、昭和61年からコツコツと撒き続けて来た福祉の種が突然変異を起こしたとしか言いようがありませんでした。平成20年10月、密告監査に始まった大がかりな乗っ取り事件の真実を明らかにして悪に立ち向かう力は誰にもありませんでした。確かに潤心協会はもう私が創ったものではなくなっていたのです。

平成21年8月　潤心協会を後にする

「たすけあい一歩」発足式
八千代市下市場 2009年9月

2009年

平成21年9月　株式会社あゆみ 設立
　　任意団体 たすけあい一歩 設立
平成21年11月　特定非営利活動法人　たすけあい一歩 認証
平成27年3月　サービス付高齢者向け住宅　まほうの家 開設

　ウサギのようにひと休みをしている暇はありませんでした。再び前を向いてコツコツと歩みだしましたが、風は向かい風、その中を突き進んで行くのは非常に厳しいことでしたが、残りのエネルギーと、支えてくださった大勢の皆様のおかげで、現在、平成29年9月ですから、再出発から、もう9年目に入ります。

　ご支援くださった皆々様に、あらためて御礼申し上げます。福祉を事業に置きかえた介護の分野は、心を忘れて展開されています。介護制度が仏として創られたのであれば、展開する時には、そこに魂を入れて動かしてほしいと願わずにはいられません。

この命ある限り、ご縁のあるお年寄りの幸せ作りに取り組んでまいります。

特定非営利活動法人 たすけあい一歩
代表･横田治絵 記

華やかな
クリスマスね
ゆっくり噛んで
食べなさいよ
スイスカラ
キマシタ
大きくなった
孫 どぉ?
遠路よく
来てくれたね
天気も
最高!!
バラが
キレイ!!
スイカ
爆弾だぁ!
京成バラ園
八千代市 2011年10月27日
次は何
歌う?
う~ん…
やめ
てぇ~!!
騒がしいわね
「デイサービス太陽」にスイカ届く
八千代市桑橋 2012年9月
たすけあい一歩
2度目のクリスマス!
「クリスマスパーティー」
八千代市下市場 2010年12月
いつも おいしい
料理 ありがとう
愛情込めて
調理してます
「デイサービス
太陽」最高!!
デイサービス
太陽
福祉あれこれ列車
まもなく30年走破!
「デイサービス太陽」
八千代市村上南 2010年
福は内!
鬼は外!
「節分まつり」
下市場 2010年
八千代台中
職場実習です
いただき
ま~す!
職場実習で食事介助
「デイサービス太陽」2011年
お誕生日
おめでとう
もっと長生き
してね!
82歳を
迎えました!!
(当時)
お祝い
ありがと
お誕生日
おめでと!
「お誕生会」
下市場 2011年
みんな
笑顔がいいね
お楽しみ会
久々の開催です
ことしも
はやかった!
「クリスマスパーティー」
八千代市桑橋 2011年12月
手形に切った
紙を丸めるの
「クリスマスパーティー」
八千代市桑橋 2011年12月
お招き
ありがとう
うしろは 手形で
作ったツリー!!
第2回「お楽しみ会」
八千代市「アースメイト」2011年
俺の
散らし寿司
召しあがれ!
自信作だ!
我が
アースメイト
へ ようこそ
「クリスマスパーティー」
八千代市桑橋 2012年12月

手をつなごう～♪
桜が見事!
軍浦（グンポ）市民会館
ソウル 2011年11月26日

わが人生初海外!
景福宮（キョンボックン）
ソウル 2011年11月25日

ようこそ、アースメイトへ
「第2回 お楽しみ会」
八千代市「アースメイト」2012年5月20日

飯綱近隣公園
八千代市ゆりのき台 2012年4月9日

新川の桜もとても素敵♪
新川サイクリングロード
八千代市村上南 2012年4月10日

お楽しみ会、盛り上がったね!
楽しかった…
ウィッグで変身してみた!
ハイ、ポーズ!!

ダンスに 留学生に にぎやかな たなばた!!
「たなばたまつり」
八千代市桑橋 2012年7月7日

83歳になりました!!
(当時)

全員集合!!
華麗なダンスご覧くださいませ

できるかな
デイサービス太陽
折り紙アートきょうちょろしく

提灯
今回のアートは提灯に描きます

What's "Niko--niko Art"?
八千代台中学校「職場実習」
「デイサービス太陽」2012年

ニコニコアート始めましょう
ココをこうすると…いいでしょ?

どの模様にしましょうか?

腕をふるって寿司握ったよ

サンタさんが来たわよ!!
「クリスマスパーティー」
八千代市桑橋 2013年12月

サンタさん
プレゼント持って来ました

書初め
みんな上手
全員で「書初め」
八千代市桑橋 2013年1月2日
みなさん、
おいしい?
こちらこそ
よろしく
ことしも
よろしく
「新年会」
八千代市桑橋 2013年1月14日
「鬼」役
こらぁ!!!
うるさい!
「節分まつり」
八千代市桑橋
「恵方巻」
節分「恵方巻」食す
八千代市桑橋 2013年2月
さんま 早く
よこせ!!
今 焼いてます
お待ちください
「ざんままつり」
八千代市桑橋 2013年9月
母の日
おめでとう
カーネーション
ありがとう
「母の日」
八千代市桑橋 2013年5月14日
「さんま」
さぁ サンマ
焼くよ!
じゅ〜
いいお天気
蒸し暑〜い
「たけのこまつり」
八千代市桑橋 2013年7月7日
たけのこ掘り
楽しかった!
桑橋 (そうのはし)
ことしも
たけのこ
大豊作!
職場体験
がんばって!
さぁ やってみようか
折り紙アート
職場体験「中学生」
八千代台中学生「職場実習」
八千代市桑橋 2013年10月25日
「お楽しみ会」
「アースメイト」2013年5月26日
岡村顧問
会場ご提供
ありがとう!
にぎやかで
楽しいねぇ
舞台で歌って
緊張した〜
あ〜 きょうは
楽しかった!
来年も楽しみだ
食事はうまいし
カラオケ最高!
トリを歌わせて
いただきます
俺の特製寿司
召しあがれ!
もうクリスマスかぁ
ことしも1年
早かった!
「クリスマスパーティー」
2016年12月23日

記録的大雪
八千代市桑橋 2014年2月9日
姉さん おめでと!
サービス付高齢者 向け住宅 発進!
「まほうの家」地鎮祭
八千代市島田台 2014年7月21日
居心地よき場 築くわよ!!
「まほうの家」建設予定地
八千代市島田台 2014年7月10日
「たけのこまつり」
八千代市桑橋 2014年4月28日
でっかい たけのこ!!
鬼は 外!!
「節分の豆まき」
八千代市桑橋 2014年2月4日
みんな よく来て くれたね!
みんな ありがと!
84歳のお誕生日会
八千代市桑橋 2014年4月4日
この土地の氏神様 「真宝」建てさせてもらいます
来年のクリスマスは 「まほうの家」だね
ことしも よろしく!!
「デイサービス太陽 新年会」
八千代市桑橋 2014年1月13日
長生きでき ますように
ちなみに私 歯医者です
中学生のみんな 介護実習どうだった?
お散歩 行こう!
よろしく
八千代台中学校「職場実習」
2014年10月30日
まほうの家 起工
建築中の「まほうの家」躯体
八千代市島田台 2014年7月21日
ここ桑橋(そうのはし)は いい環境なの
十割そば 乞うご期待
たなばた 飾りましょ
「たなばたまつり」飾り作り
八千代市桑橋 2014年6月20日
小林さん 福祉に 尽力 お願いします!
横田さん メリークリスマス
自由民主党 衆議院議員
小林鷹之さん
ビンゴ大会 始めますよ!
砂利を 敷きます
基礎工事 始めます!!
基礎工事、 進捗順調!
まほうの家 楽しみですね
「クリスマスパーティー」
2014年12月23日
にぎやかな クリスマス!
お清め しましょ!
「お清め」 って何?
だいぶ できた
足場を 組むぞ
八千代市議会議員（当時）
坂本 安さん
旧「デイサービス太陽」
八千代市桑橋 2014年12月23日
えいっ!
すいか
「すいか割り」
2014年7月25日
ありがとう がんばります!
「まほう」竣工 おめでとう
キレイに 撮ってね!
「まほう」の概観が あらわになったな
建築中の「まほうの家」2階廊下部
八千代市島田台 2014年

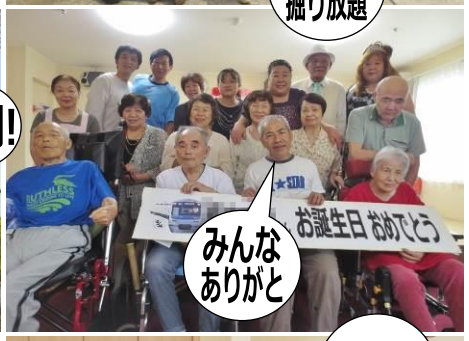
水木翔子さんとクリスマス
「まほうの家」2015年12月25日

パラオリンクス生放送
大田区蒲田 2016年9月20日

「たけのこまつり」
八千代市桑橋 2016年4月24日

100歳「お誕生会」
2016年3月27日（30日で100歳）

東京競馬 小林牧場
千葉・印西市 2016年4月6日



「一家」が 勢ぞろい
2016年4月4日

日韓放送文化交流協会 イム理事来所
2016年6月12日

「スナックまほう」ホストごっこで楽しむ
2016年6月2日

八千代台中学校生徒4名 体験実習
「まほうの家」2016年10月28日

「クリスマスパーティー」
2016年12月23日

「お好み焼き」を狙う厳しい眼差し
2016年6月11日

「ニコニコアート」
「まほうの家」2016年12月15日

「水木翔子歌謡教室」
ことし2月17日
※「手をつなごう」；水木さんの代表曲

「敬老と福祉の集い」
「まほうの家」2016年9月25日

「ゆりかごから墓場まで」

第二次世界大戦後、イギリスは社会保障制度の充実を目指し社会福祉政策として「ゆりかごから墓場まで」という言葉をスローガンとして掲げました。

人生はこの世への誕生に始まり死に至るまでを生きるということである。日野原ドクターのように105年という人生があれば、小林麻央さんのように34年のあっという間の人生もあるのです。人生は長い短いでは測れないものがあります。それは･･･生き方の問題でしょう。

日野原ドクターは1970年のよど号のハイジャック事件に遭遇して、その後の人生は自分のためではなく、他の人のために生きて来られたという。

小林麻央さんは子育ての道半ばで死と向き合わなければならなくなり、自暴自棄になってもおかしくないほど苦しんだことでしょう。しかし、小林麻央さんは自身のブログを通して笑顔と思いやりの言葉をかけ続け、同じガン患者はもちろん、病気でない人をも励まされて逝かれました。受けるより与える精神の旺盛だったおふたりに感謝の意を表したいと思うのは私だけではないでしょう。

人生は人それぞれで、型にはまって生きていく人もあれば、型を破って生きていく人もいる。いずれにしても生きるということはそれぞれの努力が必要です。衣類を纏うにしても、食を取り入れるにも、住を定めるにも努力が必要です。これは生きていくための必要最低限です。第二次世界大戦後の日本ではこの必要最低限を↗どんなに努力しても得られない頃があったそうです。生きていくために盗みや身売りをして、人格を崩していかなければならなかった人も大勢いたと言う。戦後生まれで物心ついた頃より恵まれた環境に置かれていた私でも、戦争孤児となった幼い子供たちのことを見聞きするたびに、いたたまれない思いに駆られてしまいます。

国民を巻き込んだ世界戦争の後の対応としては遅ればせながら昭和25年、自立支援を目標に生活保護法が施行されています。

イギリスの掲げた福祉政策と日本の生活保護法とではスケールの大きさこそ違いますが、どちらも人々の幸福を考えた福祉政策であったことは間違いありません。

「ゆりかごから墓場まで」福祉政策で包含するなんてなんと素晴らしいことでしょう。しかし、そうした政策には国を揺り動かすほどの財源が必要で、初の女性首相・サッチャー氏によって縮小されていきました。日本の昭

日野原重明さんと聖路加国際病院の旧館
2011年6月9日

小林麻央のブログ「KOKORO.」
2017年8月14日更新「Surprise after the operation」より

Ⓒ朝日新聞 Ameba

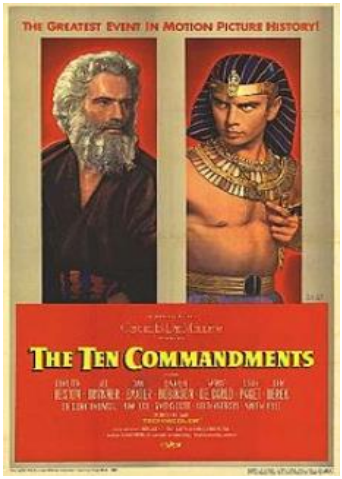
和は戦争、敗戦、高度経済成長期からバブル期へと、そしてバブルの崩壊、と、まさに激動の時代でしたが、「ゆりかごから墓場まで」人々が抱える問題は峰のように高く、裾野のように広がり、終始がつかないという現状です。

一体誰がこうした問題を解決できるのでしょうか?

過去の歴史は、人が人を治めることの難しさを物語っております。実際これほど膨大で多岐にわたる問題をひとりの采配で片付けられるはずもありません。

親は木の上に立って子供を見ていると言いますが、子供は親が見ているか見ていないかを知っています。見えなくても親は子を、子は親を信じているという固い絆は、昨今ではすっかり緩んでおります。これもあれも団塊の世代のしつけのせいなのでしょうか？いいえ！　それは「戦前の教育」と「戦後の教育」の真逆の教えに翻弄された結果に出てきた答えなのです。また「ゆりかごから墓場まで」抱える諸問題は昭和が生み出したものでもありません。すべての問題は人の心のあり方にあるのではないでしょうか？

古代エジプトで奴隷状態にあったイスラエルの民をモーゼが救出したというのは、チャールトン・ヘストン演じる「十戒」でもよく知られております。救出されたイスラエルの民は、当然モーゼの神を崇拝することになると思うのですが、残念ながら愚かにも大半が自分たちで作った偶像に懇願するようになりました。イスラエルの民は奇跡の救出という歓喜に続き、「ゆりかごから墓場まで」何の努力もせず、欲しいものはすべて与えられると思っていたのでしょうか？↗



↗足かせを外され自由に歩いていくことができる機会をいただいたら、感謝感激ではありませんか。あとはひとりひとりの夢を持って、ひとりひとりの責任で歩んで行かなければなりません。坂道を上り、茨の道を通り抜け、雪を踏みしめ、転んだら立ち上がり、雨に打たれたら木陰で一息入れて、立ち止まっている人がいたら一緒に手を握って弛まず歩いていく。いつの日か事切れるまで。それが人生だから。愚痴らず、不平不満が出たら払いのけ、初心に帰れば、常に自らを律することができるのです。確かに口で言うのはたやすいこと、実践するのは非常に難しいこと。でも「人間は悪いこともする、嘘もつく、悪口も言う、神様じゃないのだから」と言う人がいます。神様もこんなことで引き合いに出されては困ったものですが、こんなこと、子供に言えますか？　言う人がいるのでしょうね。

彼の小林一茶も「幼子が知らず知らずに知恵つきて、仏の道に遠くなるぞ悲し」と嘆いていましたから。

では何もかも諦めて日和見主義で行けばいいのでしょうか？　それがこの世の賢い大人なのでしょうか？大人であれば何が悪いことか、何がよいことか、当然わかるでしょう。単純に善と悪に遭遇してひとりひとりが勇気を持って善を行い、決して悪に屈しないとしただけで、「ゆりかごから墓場まで」に至る問題のほとんどは解決するでしょう。

人の心は本当に弱いものですが、どのような状況の下でも悪に屈せず、正義を貫き通すことは大人げないことだと言えますか？

「ゆりかごから墓場まで」ひとりひとりが抱える問題を解決することができるのは、ひとりひとりの心に係っているのです。

わたしの胸の内

今の私の胸の内は･･･あれもこれもそれも、うーん、何も言い尽くせないほどの出会いと別れがありましたから。それが明日は私がお別れをしてもおかしくない頃になりました。平成29年8月22日現在の私の胸の内を整理しておけたらと思います。

すべての命には終わりがあります。そのことをいちばんよく知っているのは人間のはずなのですが、なぜかそこには触れたくないと言う人がいれば、非の打ちどころががないほど用意周到な人もおります。私は

© パラマウントピクチャーズ

忙しさに追われてどちらでもなかったけれど、死を見つめることをタブーとはしていませんでした。むしろ自分の最後はこうありたいと思い巡らすことはよくありました。

想像にもしていなかった古希を迎え、ここまで生かしていただいたこと、まずは感謝です。

これからは残りの人生、少し羽を伸ばしたい気持ちにもなりますが、残念ながらそんな暇はまったくありません。残りの人生が、あとどのくらいかは分かりませんが、億の借金をしてようやくできた「まほう(真宝)の家」が、必要な人にとって居心地のよい「終の棲家」になってほしいと心から願っております。

親孝行もしないうちに逝かせてしまった母への讀罪(しょくざい)の気持ちから足を踏み入れた介護の道。まだ34歳でしたから、なぜかお年寄り以外の人間関係にいつも悩まされていました。今思えば、それだけ未熟だったということでしょうか。でも、お年寄りに接することは楽しくてしょうがありませんでした。ひとりひとりお年寄りには、似たようでもまったく違う歴史があるのです。生まれたところも、育った環境も、考え方も、経験してきたことも全部違うのですから、非常に勉強になりました。お年寄りは私にとって生き字引でした。何せ明治・大正のお年寄りには、何もなくても生きていく逞しさがあって、それが私には目映く、感激の連続でした。でも、歳をとると、いくらがんばっても思うようには動けなくなるのです。できなくてもできると言い張るお年寄りは今も昔も同じですが、環境の変化でしょうか？　昔のお年寄りと今のお年寄りでは心根がまったく違います。やはり人間は心を磨き続けなければならないのだと思います。

私は死ぬまで休まずこの仕事をするのでしょう。だいぶ足手まといになってきましたが、贖罪から入ったこの道、今は天職に変わっておりますが、私の探し求める桃源郷にはたどり着けないかもしれませんが、後悔はありません。

人は過去を振り返ってみて、なんと多くの人と係ってきたのかと驚くのではないでしょうか。そんな中でもさらに、行けども行けども去り難く、忘れ得ぬ人がたくさんいます。

歳を取ることは悲しいもので、五感の衰えから始まり、病気にはなりやすくて治りにくくなり、数々の思い出もうる覚えになっていくのです。日々健康に気をつけていても、生まれつき強健な身体を持っていても、誰ひとりとして心身の衰えから逃れることはできません。唯一使えば使うほど衰えないのは脳です。ですから死ぬまで磨きをかけられるのが人の心というものです。どんなに望んでも人は過去に戻ることはできません。ですから今が、これからが大切なのです。腎(むらと)ひとつになった私の胸の内は複雑に入り乱れていますが、窮地に陥っても、叩かれても、打ちのめされても、私は最後の最後まで悪には加担しません。人の心は時代と共に変化していくかもしれませんが、善悪の基準だけは決して歪められてはなりません。人生って悲しいけれど常に善悪の綱引きのようなものかもしれません。私は必死で善の綱を引っ張り続けて行きます。

歩み（あゆみ）

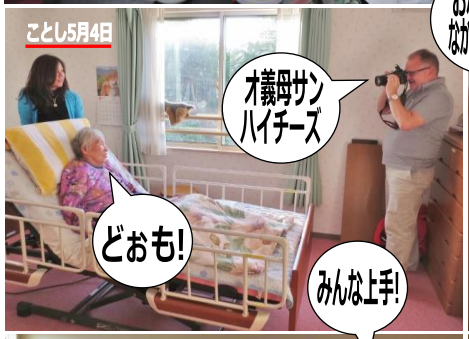
「潤心協会」というネーミングは私が付けました。福祉の原点という思いを込めたものでした。乗っ取り後、その名は6年ほどそのまま使われていました。そして最後の一滴まで搾り取ったのち乗っ取り組は独立。介護保険システムを知らない会長はギブアップして、ここに「潤心協会」は消滅したようです。新聞や市の広報に記載された1億5,000万円という返還命令金は100万円位でうやむやに終わったようです。故に乗っ取り組は、横田が1億5,000万円を持ち逃げしたとか、書類をめちゃくちゃにして1億5,000万円の借金を作って逃げたなどと風潮したとのこと。福祉の世界にあるまじき極悪非道なこの出来事に関しては、原稿用紙10枚でも20枚でも書き切れるものではありません。また、乗っ取り組以外の関係者のすべてを詳細にするには、ノンフィクションとして書き上げるしかないでしょう。裁きではなく、あるまじき事件の再発を防止するためにです。

「あゆみ」という名称は深き思いの下で生まれたネーミングではありません。でも8～9年目になろうとする今では、この名前に愛着が出てきました。「潤心協会」から「あゆみ」へ、そして「たすけあい一歩」へと足を止めずに歩き続けてまいりましたが、これもひとえに皆々様のおかげでございます。この感謝の意は筆舌には尽くし難く、ただただ残る腎(むらと)の底から御礼申しあげます。また引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

「水木翔子歌謡教室」
ことし5月19日

ことし7月31日

玄関先でひなたぼっこ
ことし5月5日



ことし5月4日

リハビリ・荷地氏と雑談
ことし6月10日

母の日のカーネーション
ことし5月13日

70歳の誕生会
「まほうの家」ことし5月21日

まほうの家 ご入居
八千代市高田台 ことし6月19日

2017年

ことし8月21日

リハビリの成果 ついに立てた
ことし6月9日

まほうの家に来て久々のカラオケ
ことし7月3日

これから

9月18日（月）「敬老と福祉の集い」
正午より
10月15日（日）野外福祉の集い
桑橋にてバーベキュー
10月20日（第3金曜日）
「水木翔子歌謡レッスン」13時30分より
11月吉日「会報」第34号発行
11月17日（第3金曜日）「水木翔子歌謡レッスン」13時30分より
12月24日（日）「年忘れ 福祉の集い（クリスマス）」正午より
（適宜 毎月1回 臨床美術士・大石宣子先生「ニコニコアート」）
平成30年（2018年）1月
年賀状の代わりに「会報」35号を発送します。

お部屋からリビングへ初進出
ことし6月13日

リハビリを兼ね外を散歩
ことし4月28日

「たすけあい活動」30年のあゆみ 新聞編

新聞媒体で紹介された「たすけあい活動」

勝田台・佐倉版勝田台・志津・村上・米本・こてはし・王子台・臼井

八千代地域新聞

昭和62年11月19日(木)第264号 毎週火・木・土曜日発行 八千代市・花見川周辺 東習志野・志津・臼井 全戸手配り 78,442部

勝田台・佐倉版 38,647部

発行所 八千代地域新聞社 発行人 近間之文 八千代市八千代台北6−1−5 ☎0474-86-3634

地域に根をはる

「手づくりの福祉」サービス

高齢者福祉実践相談所 潤心協会

一年たって今……

ただひたすらに「お年寄の心に潤いと生き甲斐を」との一念で歩み出したこの道。気がついてみたら一年が過ぎていた。その時間も2000時間を悠に越している。正直無我夢中で奮闘して来た実感を肩で知る思いである。

「潤心協会です」と声もようやく板について来たという感じの今日この頃であるが、中味についてはまだまだ一年生。でも必要のある限り私達は、個々のニーズに合わせたケアーの方法を摸索し続けて行きたい。否応無く急速する高令化社会に求められるのは、何と言っても大勢の人々の暖かい手なのである。

この一年、私達は在宅でのお世話にのみ邁進して来たが、種々の事情で一時的に預って欲しいとの要望には応えられないで来た。

ミニホームの計画は、当初通り変わってはいないが理想の20名定員のホームを八千代に!というのは、現状厳しく必然的に他の地に目をやらざるを得ない。

しかし、急を満たす託養ホームはここ八千代にも是ひ必要である。かつて栃木県でも一般住宅を借りて託養ホームをと計画した事があったが、没になっている。

実際こうした方法は、赤字運営を免がれない。潤心協会では、在宅活動においても赤字を余儀なくされているが、協会会員のボランティア精神が多分に救いとなっており、用途を理解して貸して下さる広めの借屋があったら、即託養ホームを始めたいという願いは切実である。

誰もが辿る老後を考え乍ら一緒にお年寄のお世話に励む仲間を募っています。詳細はお電話下さい。

システム

会員制
- 本部会員
- 協力会員
- 賛助会員
- 利用会員

利用会員

入会金(永久) 三五〇〇

月会費(利用月)一五〇〇

一時間のお世話料五〇〇

☎0474(85)7050

（第三種郵便物認可）　1997年（平成9年）1月27日（月曜日）　読

私見異見

在宅福祉は住民参加で

「グループホーム」が目標

制約多過ぎる行政ケア

県の来年度予算案に登録ホームヘルパー活動推進事業が盛り込まれたが、高齢化社会の進展で在宅福祉を取り巻く厳しい状況は変わらない。住民参加型の在宅福祉サービス団体「潤心協会」のケースワーカーとして24時間介護などに取り組む横田治絵さんに在宅福祉の現状と今後を聞いた。

ケースワーカー

横田　治絵さん

札幌市出身、八千代市在住。50歳。母親の影響で30歳を過ぎて一念発起、特別養護老人ホームの寮母に。36歳で社会福祉主事の資格を取得。寮母時代に知り合った五十嵐敏男代表と、1986年に八千代市で潤心協会を設立、活動を続ける。

――在宅ケアに対する利用者のニーズの現状は。

体の弱ったお年寄りには住み慣れた環境を離れるだけで体や精神に負担がかかる。お年寄りにもわが家を離れたくないという気持ちが強く、「家で死にたい」と話す人も少なくない。

しかし、利用者の状況は独居老人の家事援助、話し相手から、家族がいても体が動かない場合や死が直前の終末ケアなど様々。また家族構成や仕事、資金力などの問題があり、個々人によって千差万別だ。

――どんな活動を。

家族が長く介護できるように援助し、利用者に人間らしい生活を送ってもらうのが目的。利用者の日常生活行動能力調査や家族の介護能力などを聞いて、ニーズに合わせ一時間六百円で一―二十四時間の介護や食事サービス、ショートステイなどを引き受けている。

何事もできるうちは、スープだけの食事でも、簡易トイレでの排便もやってもらうようにしている。

現在、利用会員は約五十。うち二十四時間介護は二件。施設の関係でショートステイは同時に複数の人を預かるのは難しいが、二年間利用した女性もいる。昨年度の活動時間は、延べ二万八千時間を超えたほど。

――行政サービスの問題点は。

行政が行う平日の昼間二時間程度のサービスでは、利用者がサービス体制に合わせているようなもので、利用価値はほとんどない。休日になると、おむつ交換や食事も休み。年末年始はとりわけ寂しさを感じるのに配慮がない。そんなところにも独居老人の自殺が増える一因があるのでは。サービスの質も入浴はシャワーを当てるだけ、用をたしていなければおむつも替えないというケースも。

――在宅介護の今後は。

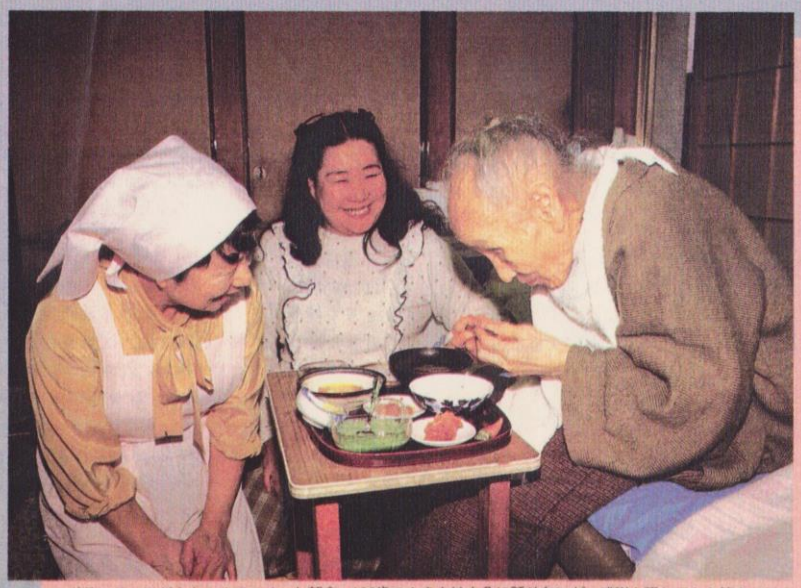
高齢化と核家族化の進行で、独居老人の数は増える一方だが、運営資金やボランティアなどの制限からお年寄り数人が集団で生活する「グループホーム」が目標。そのためには、市民が学校教育やお年寄りとの交流の場を設け、福祉の大切さを身に着け、地域ごとに作られてほしい。

うちのボランティアは、ある市のホームヘルパーより活動時間で三・五倍にもなりながら、一人当たりの費用は八十分の一だけだった。帯に短したすきに長しの福祉に税金を使うより、民間に助成したほうがはるかに役に立つと思う。

現 特定非営利活動法人 たすけあい一歩・横田治絵代表が、この30年の間に取材を受け掲載された各紙をご紹介いたします。

↑ 読売新聞1997年1月27日「私見異見」 在宅福祉は住民参加で 「グループホーム」が目標　制約多過ぎる行政ケア　ちょうど20年前の横田代表の記事。

Medical Tribune
dementia today



ボランティアが心をこめてつくった朝食。100歳のAさんは十分に話せないが，感謝を現してから箸をつける

老人とともに

有償ボランティア団体
（千葉県）

潤心協会

社会のさまざまな領域に，ボランティア活動が浸透しつつある。しかし，その拠り所はあくまで「善意」であるため，サービスの給付者と受給者との間に遠慮や不満が生じることもある。一方，市町村の公的サービスは，受給資格制限，回数制限など，家族の切実な要求を満たしていないのが現実だ。

千葉県八千代市の「高齢者福祉実践相談所・潤心協会」は，こうした“福祉の隙路”を，文字どおり実践的に解決していくため，有償ボランティア団体として1987年に設立。寝たきり老人，ぼけ老人など，介護家族の援助に奮闘している。設立当初の，「弱い立場の家族を商売のタネにしている」といった誤解・偏見はなくなったものの，行政の無理解は変わらない。

潤心協会の中心メンバー，横田治絵氏は「必要な時間に，必要なだけの援助を求める家族は多くても，対応するボランティアが増えないのが最大の悩み」。また，「私たちの活動は，私たちが老人になったときのためでもあるんです」というが，若い世代の関心の低さは，やはり気がかりだ。

Aさんの自宅で朝食の用意。「家庭の味」は在宅の大きなメリット

中心メンバーの横田さんは，自ら介護にあたるほか，ボランティアの指導，連絡役を務める

家族に送られ，Bさん宅へ。冬のバイクはつらい

Bさん（左）は，ボランティアと同じエプロンがお気に入り

同じ在宅介護を受けている，数分先のCさん宅へ

BさんとCさんは“被介護”友達。歌ってみたり，話がつきない

ここから↓

人＆ライフ

血の通う高齢者福祉に奔走

ケースワーカー　横田　治絵さん（五〇）

「福祉に携わる前は私も普通のOLでした。今考えると赤面してしまうほど自分の事しか考えていませんでした」

今年十一年目を迎える「潤心協会」で横田さんは代表の五十嵐敏男さんとともに高齢者福祉に尽くしてきた。行政の網の目からどうしてもこぼれてしまう、寝たきりや痴呆のお年寄りを主に介護する。

「福祉のことを本気で考えはじめたのは・・」と今から二十年ほど前を振り返る。横田さんのお母さんは「めっぽう世話好きな人」だった。それもそんじょそこらの世話好きではない。近所の困っている人を見ると何もしないではいられず特に身寄りのないお年寄りなどにはいつもこまめに面倒をみていた。横田さんはそれを「戦後の動乱の中、朝鮮から引き上げてきて、言葉では言い尽くせない苦労をしたから」と説明するが、苦労を経験した人が誰でも同じように出来るかといえばそうでもないだろう。

そんなある日、「私はそのとき、母に用があって探していました。あるお年寄りの家へ行っているということで私も行ってみたんです」。その家へ一歩入るなり目にしたものは「母が手にしている汚れたオムツでした。あたりはひどい悪臭で、驚いた私は一目散に逃げ帰りました」。その夜「そこまでしなくても、何とかやめてもらえないか」と訴える横田さんにお母さんは「人様の下の世話が出来るようになって初めて一人前。人目に一番晒したくない部分を晒すお年寄りの気持ちを考えてみたことがあるか」と懇々と諭した。「目が覚める思いでした。今まで私はなにをしていたんだろうと思いました」。

その日からちょうど一週間後お母さんが突然亡くなってしまう。五十四歳だった。「まるで遺言のような母の言葉でした。その時初めて人とは・・、生きるとは・・と、そして福祉について深く深く考えました」。

今で言う「在宅介護ボランティア」のはしりであったお母さんの遺志を継ぐ思いで福祉の世界へ飛び込んだ。特別養護老人ホームに四年勤め、その他にも公立・私立の多くのホームを訪ね歩いた。「お年寄りを殆ど物体としか見ていない現状にびっくりしました。私がやりたいことはこんなことじゃあない。もっと血の通った、たった一人の人にでもいいからほんとに喜んで貰えるお世話をしたいと切実に思いました」。

同じホームに勤めていた五十嵐さんと潤心協会を始め、「この前数えてみたら百三十八人のお年寄りと触れ合いました」。行政の福祉の実態を嘆きながら「ゆっくりと待っている時間はありません。今できることをとにかく実践していくことが大事です」と語る。

八千代市在住。

文・山本みどり
写真・花沢　実

↑あさひふれんど千葉　第389号　1997年5月15日
「人＆ライフ」　血の通う高齢者福祉に奔走　朝日新聞

別刷り、これもちょうど20年前の記事。

「福祉」を本気で考えはじめたのは今（昨年）から30年ほど前。あるお年寄りのお宅へ赴くも、悪臭を放つ汚物を手にした母の姿。驚愕し逃げた横田代表は「やめて」と切願するも「他人様の下の世話ができるようになって初めて一人前、人目にいちばんさらしたくない部分をさらすお年寄りの気持ちを考えたことがあるか」。目の覚める思いをした横田代表、この1週間後、母が54歳という若さで急逝、遺言にもとれる一喝に「福祉」へと人生の舵をきり現在に至ります。↗

平成5年11月5日 第698号

手づくりのお楽しみ会 和やかに開かれる

―潤心協会7周年を迎えて―

～地域に根をはる〝手づくり〟の在宅福祉活動～『潤心協会』(五十嵐敏男会長)のお楽しみ会が10月11日(祝)八千代台文化センターで行われた。

90席を設けて協力会員を中心とした手づくりのお楽しみ会は、心の籠った料理や余興で盛り上げ、日頃外へ出ることの少ない利用会員を喜ばせた。

昨日より今日、今日より明日へと一つ、一つ積み重ね「手づくりの福祉」「心によるケアー」をモットーに発足以来7周年。今日まで係わった利用者数は70余名、協力者数は150余名に上るという。

高齢者社会における在宅福祉問題の実践相談所として利用者のニーズに応える献身的な活動の実態が、うかがえた。(茜)

←八千代地域新聞 第698号 1993年11月5日「手づくりのお楽しみ会 和やかに開かれる(旧潤心協会7周年を迎えて)」きのうよりきょう、きょうよりあしたへと、ひとつひとつ積み重ね「手づくりの福祉」「心によるケア」をモットーに発足7年を迎えた記念式典を掲載。

地域新聞

発行 株式会社 地域新聞社 〒276 八千代市八千代台北10-23-36 ☎0474-83-9100 FAX83-9722

第787号／平成7年9月1日(金) 総発行部数103,528部(毎週金曜日発行)

←八千代地域新聞 第787号 1995年9月1日「真剣に考えてみたい“在宅福祉活動”」

真剣に考えてみたい〝在宅福祉活動〟

地域に根をはる〝手作り〟の在宅福祉活動を続けてこの9月1日で10周年を迎える潤心協会(五十嵐敏男会長)を訪ね、ケースワーカーの横田治絵さんに、これまでの歩み、現状、今後の課題などを聞いた。

昭和61年に設立した同協会の初年度活動時間は約2千500時間だったが、現在では約2万5千時間の10倍に達した。利用会員25名を協力会員50名で支え、それぞれのニーズに十分耳を傾けながら、キメ細かい在宅福祉サービスを実践している。

「在宅福祉活動は受け手にも担い手にも互いに思いやる優しい心が必要ですね。〝ケアーは頭でするのではなく心でするもの〟をモットーにがんばってきました」という横田さんは、ふくよかで観音さまのよう。

試行錯誤しながらの活動の中から、より高いレベルの福祉態勢を心がけ、行政の手の届かない24時間年中無休体制を確立した。

「後10年待って、とは言えません。今、困っている人に現状で最善の対応をしなければ。病院の付き添い制度の廃止に伴って、これからシルバー産業が盛んになってくるでしょうが潤心協会の活動はあくまで福祉と捕え、ボランティアの域を脱する事を望みません。週に一善でも生活パターンの中に組み入れ、続けて下さる協力会員(有償)さんを募っています」という横田さんの言葉は在宅福祉への熱い思いに満ちていた。(茜)

☎0474(85)7050

「あなたもご一緒に」と横田さん(右)

1986年(昭和61年)設立した「旧潤心協会」10周年を迎えた同日付の「地域新聞」に掲載、「ケアは頭でするのではなく心でするものをモットー」と、ぶれずにがんばってきた横田代表について「観音様」と比喩。それからさらに20年が経過、昨年30年です。

明るく豊かな地域社会の発展をめざす地元の新聞　一部10円
八千代地域新聞
昭和61年8月30日(土) 第114号　毎週火曜日・土曜日 52,143部発行
八千代台北西版
発行所 八千代地域新聞社
発行人 近間之文
八千代市八千代台北6-1
☎0474-86-3634

➔八千代地域新聞（八千代台北西版）第114号 1986年8月30日「八千代に『手づくりの福祉』誕生 ～高齢者福祉実践相談所」「料金は低く、お世話の質は高く」をスローガンに高齢者福祉実践相談所という相互扶助方式を民間で初めて導入した潤心協会（当時）、今の社会を築いてくれた先人、いわばお年寄りの皆様が「安らぎと生き甲斐を得られるような奉仕の志」に重きを置きお世話をして差しあげる精神です。当時、民間が行っていた介助には経済的な負担が重くののしかかっていたところに、都が実施し需要を見出した相互扶助を、質を落とさず料金を手ごろに抑えたシステム導入し、30年にも及び八千代市を基盤に実施し続けた現在の「特定非営利活動法人 たすけあい一歩」。こうして各メディアに取りあげられるほど画期的システムであったことが想像できます。

「ご家族の介護軽減・お年寄りの処遇向上のためにミニ老人ホーム開設」を予告した同記事。現在は「まほうの家」に意志が引き継がれ、ここまでの道のりで多くの方々がお世話になってきた、この「相互扶助」「たすけあい活動」。今回掲載する記事・写真はほんのひと握り。30余年の活動は福祉（幸せ）の歴史に永遠に刻まれるとともに、福祉に捧げた生き様は、たすけあい冥利に尽きることでしょう。

八千代に「手づくりの福祉」誕生

高齢者福祉実践相談所

今後更に進む高齢化の社会。それに伴い、お年寄り自身とその家族が抱える諸諸の問題は、益々多様化し増加する一方です。

健康で幸せな老後、家族や周囲の人達の手をわずらわさない老後の生活は、万人の共通の願いでしょう。けれども、残念ながら痴呆症や寝たきりの病いに冒されない、という保証はどこにもありません。不本意にして、そのような悲劇に見舞われてしまった場合、そのお年寄りの面倒は誰が看るかということが問題になってきます。

身内の中に面倒を看てくれる人がいない場合、必然的に公的にせよ民間にせよ介護を委ねる機関に依存しなければなりません。

誰もが経済的負担の軽い公的機関を頼りたいところですが、公の機関のベッドは満床というのが実状です。

そこで民間福祉サービス業への依存も余儀なくされるわけですが、それは内容の向上に比例して、庶民にとってはまさに高嶺の花化してしまっているのが現実です。

例えば、民間ではお年寄りの付き添い料は日中のみで7千円、昼夜で1万円以上。オムツ交換1回3百円という所もあり、1日最低5回として千5百円です。

これらを一ヶ月分、一年分と単純計算する時、ただもう溜息が出るばかりです。

料金は低く　お世話の質は高く

そこで「高齢者福祉実践相談所」は、既に東京で功を奏している相互扶助方式による低料金の福祉サービスを初めて民間に採り入れて開設するものです。永年社会に貢献されたお年寄りが安らぎと生き甲斐を得られるよう奉仕の志を持って。肉体、環境、精神面で失意を重ねるお年寄りに心の潤いを、というのは容易なことではありません。しかし、お世話をする側の人の心に偽善のない愛があればどんな頑なな心も開いてくれるものです。「潤心協会」の最大のポイントは低料金と精神ケアです。

最後に、ご家族の介護負担の軽減と、お年寄りの処遇向上の為「ミニ老人ホーム」を開設することも追記しておきたいと思います。

・相談受付時間（平日のみ）午前9時～午後5時
・お年寄りのお世話料金
。入会金　3千5百円
。一ヶ月会費　千5百円
。ホームヘルパー　一時間5百円

・募集　真心をこめて一緒にお年寄りのお世話をする仲間を募集しています。

高齢者福祉実践相談所
潤　心　協　会
☎0474(85)7050
八千代台北1の6の2

46 (第3種郵便物認可) Medical Tribune 1990年5月17日

訪問インタビュー

ぼけ老人問題に限らず，ボランティア活動は，不十分な福祉行政を補うものとして重要な位置を占める。しかし，無償の，善意に頼るボランティア活動には，継続性その他に“壁”があるとされる。そこで，有償のボランティア活動が全国各地で組織されているが，「有償」であるがゆえの誤解や偏見がつきまとう。千葉県八千代市で有償ボランティア団体を組織する横田治絵氏の活動は，福祉行政を補うものでありながら，その行政からは無視・軽視されているかのようだ。

行政に無視されながら，福祉の谷間を埋める

地域で有償ボランティア活動を続ける「高齢者福祉実践相談所・潤心協会」 横田治絵氏

“需要”は伸び続ける

欧米の例をみるまでもなく，ボランティア活動の意義は大きいし，無償のそれは尊い。横田氏もその意義を十分に認めるが，「時に“お手伝いしてやっている”という姿勢が出て，相手や家族を萎縮させることはないでしょうか」と1つの疑問をもつ。

特に相手がぼけ老人の場合，介護に専門性があるし，家族の支援も難題だ。少ない報酬で，いわば“プロのボランティア”をめざす，それが潤心協会のようにみえる。その一方，ぼけ老人の訪問介護に出かけた潤心協会のボランティアが，老人を入浴させる際，自分も一緒に入浴しているといったエピソードを聞くと，“アマチュア”のすばらしさをもったプロ集団のようにも思える。

潤心協会は設立されて3年ほど。市民からの潤心協会の利用は1年目約2,500時間，2年目約6,000時間，3年目約1万2,000時間と伸び続けている。「お年寄りの介護は，家族だけの努力で解決できませんし，行政がカバーできているかといえば，残念ながら不十分。私たちのような組織がどうしても必要です」

当初は「年寄りを食いものにする」との反発も

潤心協会は，本部会員，協力会員，利用会員により構成され，本部会員は会長の五十嵐敏男氏と横田氏の2名で会の切り盛り一切を無償で受けもつ。現在約20名の協力会員は月2,000円の会費を納めるボランティアで，「看護婦，栄養士，保母の資格をもっている方もいるが，多くは一般の主婦」。利用会員は入会金7,000円と月の会費3,000円を納め，ボランティアの依頼1時間につき500円を支払う。

3年前のスタート当初は，無償でないがゆえに「年寄りを食いものにしている」といった非難・反発を直接間接に受けてきた。地道な活動の結果，それら偏見・誤解はなくなったものの，需要はあっても供給，つまり協力会員の不足が横田氏の大きな悩みとなっている。「市の広報紙などに紹介してもらえるなら，ボランティアがもっと増えると思うんですが……」

会の趣旨を紹介したパンフを市の老人福祉課の窓口に置いてもらえる程度の理解を得られるようになったが，それ以外の公的援助は有形，無形も一切なしの現状だ。

より所は「お年寄りが好きだから」

潤心協会の運営は，今でこそめどが立ってきたが，偏見や誤解を覚悟で有償ボランティアグループを始めたのは，もちろん思いつきではない。横田氏は老人ホームの寮母の経験をもつが，挫折をした。「結局，そこでのお年寄りの処遇に耐えられなかった。はっきりいえばひどい施設で，個人の頑張りには限界がありました」

その後も寮母経験をもつが，「施設のなかでは，職員が一丸にならないと難しい。それに，もっと少数のお年寄りと，じっくり接するほうが，性にも合っている。考え方を整理すれば，『施設の活動の限界と，地域の活動の必要性を感じて』ということになると思いますが，挫折しながらもこんなことを始めたのは，要するに私，お年寄りが好きだから」。

「Medical Tribune」1990年5月「訪問インタビュー」 (当時)横田治絵氏 「当初は『年寄りを食い物にする』との批判に苦悩した日々、こうして今、30余年の活動を誇りに思える世の中に。正に先見の明だ。

行政に無視されながら、福祉の谷間を埋める」地域で有償ボランティア活動を続ける「高齢者福祉実践相談所・潤心協会」

鈴かげそよぐ泉の水に♪かげをうつした旅の若者～♪

知らない人が多いようですが、これは美空ひばりさんの歌です。私が高校のころ、友達が教えてくれたのですが、なぜか心に残っています。故郷を出て旅路にあった若者に、故郷に残して来たあの娘のところに帰りなさいと言われ、急ぎ帰省したが、その娘は死んでいたという内容の歌です。

当時、私はまだ社会に夢を抱いていた高校生でした。よく友と将来のことについて語らっていました。この歌の最後に、娘が若者の帰りを待たずに死んじゃったという結末が17歳の乙女心には、痛く重くのしかかりました。思えばその時、人は必ず死ぬということを意識したのかもしれません。だからこそ一日一日有意義に生きたいと思いましたが、なかなか思い通りにならず、ずいぶん悩みました。

何かがしたい、よいことをしたい、役に立つことをしたい、悶々として水に流されるような20代でした。30代になって母の死をきっかけに入った介護の道。無我夢中で取り組んで、気がついたら天職になっていました。大変な介護ほど考えさせられ、動かされ、生長させられる、そんなくり返しの連続でした。そうして人間として育てられ現在に至るのですが、振り返ってみると、大きなため息が何度もでるのです。しかし心に悔いはなく、気分は非常にさわやかです。↗

今これから仕事を探されている皆様、いずれは自分が行く道のために一歩踏み出して一緒に働いてみませんか?
信念のある介護職員をお待ちしています
パートでも常勤でも大歓迎です

→ オリジナル盤 1964年発売

「美空ひばり ファンが選んだリクエスト曲集 Vol.1」↑
3曲目が「旅の若者」です
2012年11月14日発売 ©日本コロンビア

介護の後退

介護保険制度ができてよかったのか？　悪かったのか？　疑問を感じる昨今です。なぜなら私には介護が後退したと思えることが多々あるからです。

いくら介護福祉が介護事業になったからとはいえ、物を生産したり売り買いしたりする商売とはまったく違います。限られた予算は保育士より安く、その予算内で運営するのですから、私財のある奇特者か、大手企業の進出が際立ってくる。それでも私たちのような、いわば中小企業ならず零細企業事業者が必要とされるのです。お金があれば介護に携わる人も増え処遇改善もできるでしょう。でも介護保険による処遇改善加算は、実際どれほどになっているのか？　非常に疑問です。

介護保険前にワンコイン福祉に携わってくださった主婦の皆様は、それで生計を立てるという人はほとんどおりませんでしたから、純粋にボランティア精神を発揮できたと思います。その心が処遇改善を推し進め在宅介護の処遇向上の成果をあげたのです。私はそのような成果を見て、報酬を上げてやらなければと思いました。人間は動物ではないので、エサを撒かれて何かをするのではなく、一生懸命介護をして、それに見合った報酬をいただけたら、さらによい成果を目指してがんばるのだと言えます。ニワトリが先か、卵が先かではありませんが、エサにつられて介護をするのと、介護をしてから報酬をいた

だくのでは成果に大差がつくでしょう。介護者が誇りを持って介護職に従事できるのはどちらでしょうか？

私たちの介護の事例を通して、多くの皆さんが介護について真剣に考えていただけたらと思い、次号(第34号)から心に残る介護の実話を掲載させていただきます。

「OB会」を計画しております

30年余りの間にたすけあい活動に関与された協力会員さん・ヘルパーさん、「OB会」に参加しませんか。その後の話や現状など語り合えたらうれしく思います。「潤心協会」から「あゆみ」にかけて長短にかかわらず、在宅福祉活動に携わったお仲間の皆さんと積もる話に花を咲かせたいと思っております。

11月3日(金)正午より
八千代市桑橋
(元デイサービス太陽)にて
場所等不明なかたは
横田までお電話ください
080(1213)6761

サービス付高齢者向け住宅「真宝(まほう)の家」ご入居者様"増"に伴い 広告

「介護職員」募集!!

楽しく働こう!! 看護師・調理スタッフも募集しております

待遇

正社員

月額 最大260,000円(諸手当込み・深夜手当 通勤手当は別途支給します)

1か月単位の変則勤務、週休2日制です

パートタイマー

時給 850円～1,500円(お持ちの「資格」により異なります)

勤務は都合のいいお時間だけでも かまいません

「週1日だけ」でも 結構でございます

ブランクのあるかた、ていねいに指導いたします

まずは お電話にてお問い合わせくださいませ

サービス付
高齢者向け住宅 真宝(まほう)の家 株式会社あゆみ

047-411-5007 FAX 047-411-5087

〒276-0004 千葉県八千代市島田台879-7 ogino@ayumi-kaigo.co.jp http://ayumi-kaigo.co.jp/

忘れ得ぬ人々

長年、福祉活動を共にした仲間は私にとっては家族にも似た存在感がありました。そうした仲間もそれぞれの事情で別れた人もおりますが、何と言っても今生の別れとなると身を切られる思いがいたします。特に忘れることができない故人は方波見美枝子さん、麻生綾子さん、青木千恵子さん、渡辺史子さん、高瀬絹江さん。今でも当時の光景がはっきりと浮かんできます。みなさん「潤心協会」時代の協力会員として貢献してくださり生涯忘れ得ぬ人となりました。

平成29年8月16日、「潤心協会」から「あゆみ」にかけて貢献してくださった戸田久仁子さんがお亡くなりになりました。

初めて戸田さんとお会いしたのは、介護保険が始まって間もないころでしょうか？　面接にいらした時はヘルパーの資格は持っていませんでした。「潤心協会」は、たすけあい活動をやっておりましたので保険外の協力をお願いしていました。でも当時は何かとヘルパーの資格が優先でしたから、おのずと仕事が制限されてしまい、「私も取りたいけどできるかしら？」と迷っておりました。当時、協力会員の大半は、私がヘルパーの講師を依頼されていたこともあって「テレサ学院」でヘルパー2級の資格を取りました。「良いヘルパーを世に送り出したい」というテレサの社長に押しまくられて引き受けたのですが、二足のわらじは厳しく、2年で交代させていただきましたので他をあたらなければなりませんでした。「テレサ学院」は週3回9時から5時の6か月でしたが、他は時間がどんどん短縮され短期間で資格が取れるようになってきていました。ヘルパーならず介護者になるのには不安な点はありましたが、戸田さんは短期間でヘルパーの資格をいただいてきました。そしてその資格が戸田さんを変化させていきました。掃除、洗濯、料理はもともとお手の物でしたが、オムツ交換でもトランスでも積極的でした。ですから生活支援と身体介護の組み合わせができる欠かせない存在感のあるヘルパーになって行きました。

確かにヘルパー受講者は、まるでところてん式に押し出されてくるのですからヘルパー業務の3本柱さえ言えない人がほとんどでした。ですからいつも勉強会をやっておりました。「資格があるのに勉強しなきゃいけないのですか？」と言うヘルパーさんもいましたが、戸田さんは勉強することに意欲がありました。それでもお年寄りをお世話するということは非常に大変で、担当のケアマネさんから同じことを何度も何度も厳しく教育されておりました。戸田さんはそれに決してへこたれることは無く、後になって「○○ケアマネに厳しく仕込まれてよかった」と言っていました。○○ケアマネは、たすけあい活動からやってい

ましたので福祉の精神をしっかりと持っており、手綱を緩めることはしない厳しさを持っておりました。戸田さんは優しいけれども気丈さも兼ね備えておりましたので、注意をされたからといって辞めていく人ではありませんでした。仕事をする気構えと責任感があったからです。最近は厳しく育てるのではなく「褒めてなだめて持ち上げなければ働いてやらない」と言う人が増えているというのに戸田さんのような人がいなくなっては寂しい限りです。

高津に「棕櫚(しゅろ)の家」ができた時は家から自転車で来るのにラッキーだと喜んで力み過ぎたのでしょうか？　早番で7時に来るのを6時に来て「あらやだー、1時間 間違えちゃった」なんてこともちょくちょくでした。

戸田さんは特に手のかかる人を大切にして「○○ちゃん」「柴ちゃん」と呼んで手をかけておりました。

その高津「棕櫚の家」も、あの乗っ取りで中国人の手に渡ってしまい、戸田さんは「柴ちゃん」を見送ったあと、潤心協会から出て来て、「あゆみ」と「たすけあい一歩」での協力が始まりました。どちらも開設したばかりでまだ軌道に乗っていない状態でしたが、一緒にがんばってくれました。

その後、旧八千代女子医大に入院されてC型肝炎の治療が始まりました。戸田さんはいつも「大丈夫、大丈夫」と言って病気に関しては多くを語りませんでしたが、ある時、「T大病院で新薬を使うことになったの。実験台なのだけど、うまくいけば人の役に立つのだし、何もしないでダメになるよりいいからね。おまけにバイト代も出るのよ」なんて明るく言っていました。なぜかその明るさに胸に引っかかる感じでいました。↗

↗それから間もなく私が入院をした時、どこから聞いたのか東京の病院までお見舞いに来て「何で横田さんがガンになんかなるのよ！」と言われた。まるでガンに怒っているようでした。退院後、快気祝いを持参してお会いしたのが最後になりました。

まさか戸田さんの病状が進んでいたとは思いもしませんでした。ご主人には乗っ取り事件の時いろいろ動いていただいてお世話になったのですが、ご主人から腹水がたまって大変だったこと、病院に行きたくないと言っていたことなどを聞いて、私は戸田さんにもご主人にも何もして差しあげられなかったことを申し訳ないと思いました。

戸田さんは私が腎臓ガンなので、きっともう何も頼めないと思ったのかもしれません。きっと私のほうが戸田さんより先に逝くと思ったのではないでしょうか？　実際私も戸田さんより先に逝くと思っておりました。今日ガンはふたりにひとりと言われています。私はアナフラキーショックが原因で、抗がん剤が使えないとのこと。「ノニ」だけを頼りに飲んでおりますが、もし抗がん剤治療をしていたら、たぶんもう動けなくなっていたかもしれません。遅かれ早かれ人は死を受け入れるのですが、私は最後の最後まで仕事に邁進してまいります。いずれ時が来たらまたお会いしましょう。どうぞその時まで戸田さんはゆっくり休んでいてください。心よりご冥福をお祈りいたしております。

会員の皆様、ご賛助ありがとうございます

昨年度（28年4月～29年3月）、今年度（29年4月～30年3月）も「たすけあい活動」にご賛同ありがとうございます　今後とも何卒よろしくお願いいたします

平成28年度（28年4月～29年3月）匿名3名様除く

■浅岡里子様　■井上榮様　■岩上貞子様
■大越達也様　■岡部良子様　■小川春子様
■荻野明子様　■荻野博志様　■梶山ミヨ様
■片岡律雄様　■金坂京子様　■川島はるみ様
■具志幸人様　■倉持賢一様　■駒井健一様
■斉藤幸様　■杉本実様　■鈴木晄様
■鈴木芳江様　■綱島洋子様　■西田蔦子様
■新澤京子様　■ボージガー由香様　■正富洋子様
■宮地日出子様　■宮負文子様　■村松永子様
■横山秀明様　■横田治絵様　■若槻昌弘様

ご協力ありがとうございました。

活動ボランティア

■荻野明子様　■荻野博志様　■坂本安様
■篠田陽子様　■田中美保子様　■新澤京子様
■村松永子様　■横田治絵様　■吉澤健様

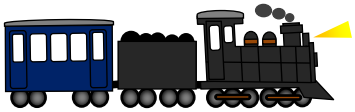
平成29年度（29年4月～30年3月）8月末現在

■井上榮様　■岩上貞子様　■大越達也様
■岡部良子様　■小川春子様　■荻野明子様
■荻野博志様　■金坂京子様　■駒井健一様
■斉藤幸様　■鈴木晄様　■鈴木芳江様
■橘實様　■綱島洋子様　■西田蔦子様
■武藤道雄様　■ボージガー由香様　■本田久子様
■横田治絵様

以上　五十音順

以上の皆様、本年度も早速ご協力ありがとうございました。会費納入は3月までとなっております。賛助会へのご協力をいただけるかたは下記の口座までお振込みをお願いいたします。

千葉銀行（0134）八千代緑が丘支店（048）
普通　3460607「特定非営利活動法人
たすけあい一歩　理事　横田治絵」



水木歌謡教室

シンガーソングライター・水木翔子さんによる「歌謡教室」、この8月で15回を数えました。インターネットラジオ「ミナキーの洒落と歌の日々」へ番組提供中。世界平和を願ってみんなで手をつなごう。発声練習・早口言葉・腹式呼吸で健康に!!

インターネットラジオは パラオリンクス 毎週水曜よる9時

広めよう、この歌
手をつなごう

作詞・作曲・歌　水木翔子

世界のどこかで今も　たくさんの人が
見えない敵に怯えて　暮らしているよ
それは時に　自分の心に潜んで
いにしえ人のあやまち　繰り返す
無駄な争いは　もう二度としないと
誓った国で生まれた　私たち
資源を奪い合わずに　与え合えたら
太陽も輝くよ　境界線越え
手をつなごう　手をつなごう　みんなで輪になって
まるいまるいこの地球を　愛で抱えよう

憎しみ捨てることから　始まる幸せ
必ず教えてくれる　空が大地が
地雷の代わりに　花の種を植えたなら
涙も癒えて　平和の実が成るよ
無駄な争いは　もう二度としないと
誓った国で生まれた　私たち
兵器や武器じゃ　命は守れないこと
伝えていくことこそが　本当の勇気
手をつなごう　手をつなごう　微笑みの水撒き
青い青いこの地球に　愛を咲かせよう

無駄な争いは　もう二度としないと
誓った国で生まれた　私たち
忘れていないからこそ　歩いてゆける
許し合い　認め合い　力を合わせて
手をつなごう　手をつなごう　オゾンの屋根の下
壊れそうなこの地球を　愛で支えよう
手をつなごう　手をつなごう　みんなで輪になって
まるいまるいこの地球を　愛で抱えよう

©日本クラウン CRCN-2241　2008年12月3日発売

「まほうの家」11月の冬化粧

54年ぶり、11月に降る雪!!「まほうの家」にも降り積もりました

11月の雪に染まる「まほうの家」
島田台 昨年11月24日

11月の雪

「まほうの家」2度目の新年

新年会を行いました

新年会

「まほうの家」にも11月に雪が降った!! 11月24日、真冬並みの寒気が流れ込んだ関東地方は雪に見舞われ、11月に観測した降雪は54年ぶり、積雪は明治8年の観測史上初。「まほうの家」がある八千代市島田台でも2センチほど積もり、11月とは思えない真冬の情景が広がりました。この数日前まで、電車には冷房が効いていたほどの小春日和だったのが一転、偏西風・寒気・低気圧の位置という偶然が重なり観測した季節はずれの降雪、雪も似合う「まほうの家」でした。

「まほうの家」開設後に迎える2度目のお正月、1月15日に「新年会」を開催、大勢のお客様にお越しいただきました。前回の「クリスマスパーティー」同様「お食事会」「歌謡フェスティバル」「ビンゴ大会」に加え、今回初登場のお客様によります舞踊のご披露もあり、盛りだくさんの内容でした。横田代表のお孫さんは「舞踊」に関心があるようで、一緒に見よう見まねで踊られて、素質があるようです。「だんらんの家 中志津」の皆様もお越しくださり、同社代表・伊藤武さんの迫力ある歌声に魅了されていました。水泳で鍛えた肺活量で、毎度ながら聞き惚れてしまいます。「千の風になって」・英語詞による「ゴッドファーザー～愛のテーマ」を熱唱、歌の合間は「ビンゴ大会」、袋の中の景品を手探りで選ぶ方式、会場は笑みに包まれました。今回もお忙しい中お越しくださった皆様には厚く御礼申しあげます。

「だんらんの家 中志津」
伊藤 武代表

「新年会」
「まほうの家」1月15日

「まほうの家」の ひなまつり

3月恒例!

「ひなまつり」
「まほうの家」3月3日

ひなまつり

「まほうの家」前を「電車」また通過

こんどは「3600形」

「まほうの家」前に停まる「京成3600形」廃車両
八千代市島田台 2月16日

「京成電車」が通過

女性のご入居者様が多くいらっしゃいますサ高住・当「まほうの家」では「ひなまつり」を3月3日に開催、踊りにカラオケに、ご馳走に・・・女性ご入居者様を盛大に祝しました。

この時期恒例の「まほうの家」前を通過する京成の廃車両、ことしからはとうとう「3600形」の廃車・搬出が始まりました。京成が通勤車8両固定編成を廃車にするのは初めてのこと。車両を半分に切断し陸送するので「先頭車（顔）」が通る確率は16分の1、そんな「顔」が今回ちょうど島田台で信号待ち、「まほうの家」前のちょうどいい場所に停まってくれました。

「3600形」は昭和57年デビューのオールステンレス車、そんな車両が早くも引退です。京成の廃車両が国道16号線を北館林まで向かう光景は「年度末の風物詩」となり「珍百景」感が薄れてしまいました。今回はいい画が撮れたので誌面にて紹介しました。

「まほうの家」前を通過する「京成3600形」3608号車
八千代市島田台 3月21日

「まほうの家」に慰問「阿修羅」

「まほうの家」で月1回「歌謡教室」を行ってくださっています八千代市在住のシンガーソングライター・水木翔子さんのお弟子さん・2人組歌手の「阿修羅」さんが、遠路・広島県より前日の水木さんの「インターネットラジオ『ミナキーの洒落と歌の日々』(「まほうの家」提供、パラオリンクスにて毎週水曜夜9時生放送)」出演に引き続き、「まほうの家」へ慰問に訪れてくださいました。彼らの持ち歌「戦国の世に咲く花」「母へ」「忘れな蝉」そして水木翔子さんの「手をつなごう」など、多岐にわたる皆さんおなじみの楽曲を披露くださり、ご入居者様のみならず、お客様や職員共々本当に聞きほれてしまいました。

©AL1105－ASHU01 R-13B0613

【阿修羅(あしゅら)】

広島県上下町出身。平成22年結成の中山隆さんと池田二三枝さんのデュオ、池田さんが作詞・作曲のオリジナル曲「戦国の世に咲く花」でデビュー。「阿修羅」の由来は、もともと戦いに明け暮れる神であったが、戦う自分を憂い、後には仏の守護神となったと伝えられている「阿修羅」にちなむ。中山さんは手創り劇団「清岳」を主宰し、池田さんは原作・脚本を担当、オリジナル劇公演を行う。「戦国の世に咲く花」「風一輪」は、その主題歌として作られた。「カラオケDAM®」にもございます。かっこいい楽曲です。ぜひご聴取のうえ、カラオケにも挑戦してください。

戦国の世に咲く花

作詞・作曲 池田二三枝

泣くのはやめろよ　見捨てられても
お前のせいなどしない　嘆きはしない
ぐずぐずするなよ　古巣へ帰れ
しかばねになっても　決して振り向くな
戦に生きる俺たちは　明日など夢見てはいけない
砕け散って灰になっても　このまま大地を走ってる
枯れ木を拾って　はいずり回って
たどり着くのは　この世の別れ
ほとばしる血潮が　赤く 赤く 赤く 赤く
戦国の世に咲く花　さらば さらば さらば さらば

▲

お前がいたから　俺がいた
二人でいたから　いつも分かり合えた
めそめそするなよ　寝床へ帰れ
しかばねになっても　決して振り向くな
生まれ変わり　めぐり逢い　戦場(いくさば)で会うと約束しよう
砕け散って灰になっても　このまま大地を走ってる
枯れ木を拾って　はいずり回って
たどり着くのは　この世の別れ
ほとばしる血潮が
熱く 熱く 熱く 熱く
戦国の世に散る花
さらば さらば さらば
さらば

▲くりかえし

JASRAC 出
1104707-101

86歳誕生日

たけのこ掘り

私どもとご縁があり十数年にもわたりご一緒させていただいているご入居者様、あれよこれよと、もう86歳。「たすけあい一歩」ではささやかながらお祝いをいたしました。仙台に住む妹様もかけつけてくださり、ご満悦の様子。姉妹なかよくどうぞ長生きしてください。お誕生日おめでとうございました。

ことしもたけのこの「旬」が、例年より少々遅れながらもやってまいりました。「たすけあい一歩」では八千代市桑橋にて「たけのこまつり」を実施、昨年と比べ小ぶりではありましたが、皆さん掘られたたけのこをおみやげに持ち帰られていました。青空のもと「たけのこごはん」や「たけのこの味噌汁」など多くのたけのこ料理が歓談に華を添えてくれました。ことしのたけのこもたいへんおいしゅうございました。

あなたも「たすけあい活動」に参加しませんか

あなたの空いた時間　あなたの得意とすることを　ぜひ地域の中で役立ててください　あなたの優しさを待っている人が大勢います

■「たすけあい活動」は会員制です

▲サービスをご利用されるかた　【入会金】10,000円【年会費】3,000円　1時間1,500円　交通費実費負担
（長時間の利用料金はご相談ください）

▲サービスを提供されるかた　【年会費】1,000円　1時間800円～1,000円　交通費実費負担

▲活動をご支援くださるかた　【賛助会員】一口3,000円　何口でも

お振込み先は　千葉銀行（0134）八千代緑が丘支店（048）普通 3460607

特定非営利活動法人 たすけあい一歩 理事　横田治絵

この他にもいろいろな活動会員がおります。詳細は☎047（485）7050 または 080（1213）6761 横田までお気軽にお電話ください

©テレビ東京

くもじいじゃ。「まほうの家」前の電飾工事におみえになられた業者さんに頼んで高所作業車から撮影していただいたぞ。日頃見ることのできない位置からの眺めはどうじゃ？ えぇじゃろ？ えぇじゃろ？ 「まほうの家」は、緑に囲まれた場所なんじゃのぉ…。

知ロットトーク!!

空からまほうの家を見てみよう+

空から見た「まほうの家」
八千代市島田台 昨年10月5日

「まほうの家」で介護を通じ人生を一緒に考えませんか？ 介護職員を募集します

お年寄りに敬意をはらえるかた ほか、後述の趣旨に賛同いただけるかた、ぜひ弊社へ!! 福祉社会の改善にあなたのおカ添えを!

介護のできるかた　カラオケの好きなかた　お料理の好きなかた　まじめで誠実なかた

正社員【月給】最大26万円＋諸手当
【勤務】24時間 変則シフト制
▲休日はシフト制 ▲社会保険完備
▲交通費支給 ▲車通勤可
▲詳細は面談時にお問い合わせください
パート【時給】850円～1,500円
【勤務】都合のいい時間でかまいません
土曜・日曜日に勤務できるかた 優遇します
【資格】「ヘルパー2級」 無資格でも可
「介護福祉士」「社会福祉主事」のかた歓迎

お問い合わせは☎047(409)8568 担当は横田・荻野です。お気軽にお電話ください。
ご応募の際は、電話連絡のうえ「履歴書(写真添付されたもの)」を持参し来社ください

株式会社 あゆみ

各利用者さま・ご家族さま・関係者さまなどの実名と顔写真の掲載に際し、各位の許諾を予め得ております

サービス付高齢者向け住宅

まほうの家

めぐり逢うご縁で集う 居心地のよい居場所

季節を感じる家庭的なお食事

お食事はすべてスタッフの手作り。
季節感のある おいしいメニューを
ご提供いたします。
ホームページにて メニュー公開中！

まほうの家

入居者募集中

ひと月あたり13万円以上18万円以内、要支援から重介護までOK
夫婦でご入居希望・経済的事情で生活に困窮されているかた
生活保護受給されているかた、ご相談ください

自由で独立した生活

スタッフが24時間365日常駐、
おひとりおひとりの生活に合わせた
見守りや安否確認の訪問を
いたします。

【施設概要】■施設類型／サービス付高齢者向け住宅　■介護保険／在宅サービス利用可　■居住の権利形態／賃貸借契約　■利用料の支払い方式／月払い　■居室区分／全室個室　■入居時の用件／自立・要支援・要介護

お花見は もちろん
たけのこ狩りにも

イベント多数!!
お誕生会は 毎月

おめでとう

ありがとう

広々とした居室 全室
お手洗い・収納 完備

歌手を招いて
毎月「歌謡教室」

■交通のごあんない　東葉高速鉄道・八千代緑が丘駅より
千葉レインボーバス、船尾車庫行き 島田台停留所下車
徒歩およそ5分　京成線・勝田台駅、東葉高速鉄道・
東葉勝田台駅より 車でおよそ15分

毒蝮三太夫さんも
来てくれました!!

お気軽に
お問い合わせください

☎047-409-8568

24時間
年中無休

担当：横田・荻野

株式会社あゆみ
千葉県八千代市島田台木戸場879-7